SHINRI BOOKS

神通力

麻原彰晃は魅せた！

オウム編集部 編

オウム出版

神通力

麻原彰晃は魅せた！

オウム編集部編

真理ブックス1　オウム出版

はじめに

神通力と呼ばれる不思議な力があるのをご存じですか。おそらく、皆さんも何度か耳にしたことがあるでしょう。そうです。神様や仏様がお使いになるような、超人間的な力のことですね。この力をもってすれば、何事も可能であるといわれています。

それでは皆さん、この神通力は自分とは全く関係のない世界の話だと思ってはいませんか。あるいは、空想上の力だとは思ってはいませんか。

いいえ、実は決してそうではないのです。神通力は、皆さんを含めて、だれもが持っている潜在的なパワーであり、正しい修行によって必ず現われてくる力なのです。つまり、神様や仏様だけではなく、人間にも持てる力だということです。

私達「オウム編集部」では、皆さんにこのことを知っていただき、さらには、神通力がいかに素晴らしいものであるかということに気付いていただきたいと願い、ある方の神通力を特集いたしました。

その方とは、麻原彰晃尊師です。尊師は厳しい修行の後、釈迦牟尼仏と同じ境地と力を得られた、日本でただ一人の最終解脱者[1]です。二千五百年の昔、釈迦牟尼がそうであったように、神通力を常時発揮していらっしゃいます。それら尊師の神通力を目の当たりにしている、成就した大師方[2]や数多くの弟子に、本書では語っていただきました。

ただ実際のところ、この書に載せられているのは、尊師の神通力の一部にすぎないことをお断りしておきましょう。というのは、弟子の中には、尊師がこういう力を持っているのは当たり前だという観念があるため、一般の方が驚かれるような神通力を見落としていることが多々あるからなのです。

ところで、この神通力の行き着く先、そこには私達の魂が求めてやまない真理が存在しているのです。今はわからなくとも、このことを心に留めて、本書を読んでいただけましたら幸いです。そして、このことに気付いて、真理の道を歩んでいただけましたら幸いです。

願わくば、この書により一人でも多くの魂が真理の道に入れますように。そして、一人でも多くの魂が絶対自由の世界に入れますように。

目次

はじめに――3

第一章　神通力、その獲得のプロセス――15

神通力のつかない修行はニセモノである！
阿含経典に見る神通力
三明六通、それは成就の目安
ヨーガ・スートラに見る神通力
ヨーガの四段階と神通力
チャクラ開発が神通力の決め手
クンダリニー覚醒によってすべてが始まる
忘れてはならない功徳のエネルギー
神通力獲得へのお誘い

第二章　神通力、麻原彰晃が魅せた驚異の実体験——37
神足通　38
奇跡！空中浮揚
空中歩行の真相
尊師の姿が消えた！
雨に濡れない尊師
尊師に傘はいらない
焼け焦げない腕
変化身での会話
天耳通　48
尊師からの戒め
聞かれていたおしゃべり
頭の中の曲を聴き取る
尊師に伝わったメロディー

他心通　53
さりげなく他心通
手渡されたおまんじゅう
他心通の正確さ
彼女への思いに捕らわれて
隠しきれない引っ掛かり
読まれた精神状態
業者の原価を読み取る
伝わってしまう心の状態
宿命通　62
女性に撃ち殺された私
裏切り者を始末した私
天眼通　66
わかっていた交通事故
交通事故とカルマの構図

ひょうきんな透視実験
手のひらの孫悟空
抜群のタイミング
ラーメン事件
美女三人が……
嘘の泥沼
出会いのプログラム
ダルドリー・シッディの心遣い
距離を超えた共時性
すべてはお見通し
ヴィジョンが決め手
漏尽通　84
どこでもわかる成就の状態
正確な道路情報
当てられたヒヒイロカネ

見抜かれた煩悩
至高のグル
すぐわかる故障箇所
ピタリとわかる欠陥工事
専門家も舌を巻く井戸の工事
驚異の純粋観照智
よみがえる古代の遺産
尊師は透明な鏡
頼もしいほどの見積計算
念力 104
愛深き念力返し
炎を動かす念力
ひと形になる炎
念力お手軽に
テレパシー 111

未来の尊師
テレパシー実験のおちゃめ
オラクル 114
聖者の降霊
コーザル・ヨーガ 116
人の心も思いのまま
サマディ 121
水中エアー・タイト・サマディ
変幻自在の瞑想状態
豊総耳の尊師
無呼吸の証明
眠りながらすべてを把握
護摩法 128
神々の降霊
天候を変える！

イニシエーション 131
最高の神通力、シャクティーパット
体調をも治すシャクティーパット
下位アストラルからの脱出
神秘の聖水、甘露水
血のイニシエーション
御宝髪、その偉大なるエネルギー
アストラル・ライン 146
解脱に導くエネルギー・ライン
神通力で書かれた本
大宇宙占星学 153
驚異の適中率、究極の占星学とは……

第三章　神通力、そして私達の修行の目標――157
成就の証明　三明六通
オウムの大師と数々の神通力
真の成就者の証明　「水中エアー・タイト・サマディ」
悟り　突然訪れる解放感
天界への道　真理への帰依
オウムと釈迦牟尼の教団　徳の優れた人々の集まり
数々の修行アップシステム　シヴァ神からの贈り物
大乗の道　マハーヤーナへ
タントラヤーナ　成就への近道
修行の到達点　解脱か、天界か
注釈――181

第一章　神通力、その獲得のプロセス

この章では、
神通力についての概略を記載いたしました。
これを書くに当たりましては、
麻原彰晃尊師のご著書を参考にさせていただきました。
なお、本文中の専門用語につきましては、
巻末に「注釈」を設けましたので、あわせてご利用ください。

◉――神通力のつかない修行はニセモノである！

神通力とは何でしょうか。

『広辞苑』で調べてみると、「何事でもなし得る霊妙な力」とあります。確かに当たってはいますが、これでは少し足りないように思えます。

例えば神通力は、ヨーガではシッディと呼ばれ、修行の成就という意味を持っています。仏教でも、この語を音訳して悉地（しっち）と表わし、同じく修行の成就という意味に使っています。

また、原始仏教では神通力の状態によって、どこまで修行が進んだか、または解脱（げだつ）したか解脱していないかという判断をしたと、仏典に記載されております。

したがって、神通力とは正しい修行によって引き出すことができる神[3]の力であり、そしてそれは、修行の進歩に応じて身についていくものであると言うことができます。

私達は常に、至高の自由・幸福・歓喜を求めております。そうした状態を得るために修行があるのです。そして、成就するプロセスにおいて、〝何事でもなし得る〟神に通じる力、すなわち神通力を、だれもが獲得できるのです。

逆に言えば、神通力のつかない修行はニセモノであると言うことができます。

◉――阿含経典に見る神通力

それでは、仏教では神通力について、どのように記されているのでしょうか。釈迦牟尼の入滅後、高弟達がまとめた釈迦牟尼の教えに『阿含経典』があります。この『阿含経典』は、釈迦牟尼の教えを最も忠実に伝えている仏典とされているのです。

その『阿含経典』の「沙門果経」の中に、神通力についての記述があります。

マガダ国の王であるアジャータサッツは、六人の師に会い、その思想と実践の成果について尋ねておりました。しかし、いずれも納得できず、釈迦牟尼の元にやってきました。そこで、同じように思想と実践の成果について質問したのです。

そこで、釈迦牟尼は自らの思想を述べられ、その成果として四禅定と六神通を示されます。それを聴いたアジャータサッツ王は歓喜し、釈迦牟尼に帰依したということです。

すなわち、修行をしていけば必ず神通力がつくのだということを、釈迦牟尼は四禅定と六神通を例に挙げて述べられたのでした。

◉――三明六通、それは成就の目安

それでは、この六神通といわれる神通力は、どのようなものなのでしょうか。

六神通には、次のものがあります。

・神足通――空中に浮く力、テレポーテーション[5]
・天耳通――普通人の聞き取れない音を聞く力
・他心通――相手の心を読み取る力
・宿命通――自分や相手の前世・来世を見る力[6]
・天眼通――普通人に見えないものを見通す力
・漏尽通――相手の煩悩を見極める力[7]

このうち、宿命通・天眼通・漏尽通という後の三つの力を三明、この六つの力すべてを六通といいます。釈迦牟尼の時代には、この三明六通を得たかどうかで成就の判断をしておりました。

それでは、三明六通を様々なヨーガ[8]に対応させたら、どうなるのでしょうか。

意志のヨーガである、ラージャ・ヨーガ[9]を成就すれば、三明が得られます。生命エネルギーのヨーガであるクンダリニー・ヨーガ[10]を成就すれば、六通が得られるのです。

すなわち、三明六通という神通力は、成就すれば必ず得られるのです。

◉――ヨーガ・スートラに見る神通力

それでは、ヨーガにおいては、神通力はどのように捕らえられているのでしょうか。先に申し上げました通り、ヨーガでは神通力はシッディと呼ばれ、修行の成就という意味で用いられております。やはり、ここでも修行をしていくに当たって、必ず身につくものという捕らえ方がなされているのです。

それでは、ヨーガではどのような神通力が挙げられているのでしょうか。パタンジャリ[11]が著わした、ラージャ・ヨーガの経典である『ヨーガ・スートラ』には、次のような神通力が記されています。

- 過去と未来を知ることができる
- 動物と話すことができる
- 自分の前生（ぜんしょう）を知ることができる
- 他人の心の動きを知ることができる

・自分の肉体を他人に見えないようにできる
・自分の死期を知ることができる
・強い力を得る
・透視したり、遠くのものを見たりできる
・宇宙の状態、真理を知ることができる
・星の配置を知ることができる
・体内の組織を知ることができる
・飢えと渇きをなくすことができる
・神霊たちを見ることができる
・他人の心を動かすことができる
・忍耐力が付く
・直感智を得る
・魂を知ることができる
・魂の根本にある真我(しんが)[12]を知ることができる
・超自然的な五感を得る

・自分の心を他人の体へ入り込ませることができる
・水に沈まないほど、体を軽くすることができる
・意のままに死ぬことができる
・体から火焔を発することができる
・神霊の声や小さな声、遠くの声などを聞くことができる
・空中を歩くことができる
・魂を肉体と切り離すことができる
・五大元素[13]を支配することができる
・体を極限まで小さくして、岩石なども通り抜けることができる
・体を大空いっぱいになるほど大きくできる
・体を蓮の糸や綿くずよりも軽くできる
・望みのままに、何でも実現することができる
・世界を創造し、支配することができる
・万物を意のままに従わせることができる
・体を大地ほどに重くすることができる

・自分の欲しいものを手に入れることができる
・強靱な肉体を得ることができる
・肉体の一切の機能を意志の力で支配することができる
・意志の力によって、すべてが思いのままになる
・すべての世界の支配者となる力を得る
・一切の事象を知る力を得る

◉――ヨーガの四段階と神通力

やはりヨーガの経典である『シヴァ・サンヒター』[14]には、呼吸をいかに制するかによって、次の四段階が生じるとされています。その四段階とは、アーランバ段階、ガタ段階、パリチァヤ段階、ニシュパティ段階の四つです。そして、この順序に従って、ステージが高くなっていくのです。

もちろん、それぞれの段階によって、得られる神通力も異なります。それでは、それを挙げてみましょう。

〈アーランバ段階〉
・空中浮揚
・予言能力
・遠隔透視能力
・遠隔透耳能力
・微視能力
・人の体に入って動かすことができる
・大小便で磨いて劣等な金属を黄金に変えることができる
・物に霞をかけて見えなくすることができる
・三界[15]を自由に出入りできる
・自分の思い通りに生きられる
・相手を意のままに動かせる
・幽体離脱[16]ができる
・万物を意のままに作り出せる
・体を重くしたり軽くしたりできる

・体を拡大させたり縮小させたりできる

〈ガタ段階〉

・輪廻(りんね)[17]の輪の中で成就し得ないことは一つもない
・すべての感覚に捕らわれなくなる
・親指で全身を支えることができる

〈パリチァヤ段階〉

・カルマ[18]を消滅し、来世に再生する必要がなくなる
・地・水・火・風・空の危険を除く能力を得られる
・巨大な時間を経ても死は来ない

〈ニシュパティ段階〉

・生きている間に解脱できる
・不死の甘露(かんろ)[19]を飲むことができる
・もはやヨーガ修行の必要はなくなる
・疲労、熱病、老衰、病気はなくなる
・必ず死を征服する

・再生することなく、神々とともに楽しむことができる
・あらゆる障害から離れて完全な独立者となる

これが、『シヴァ・サンヒター』の四段階です。

以上、ヨーガ経典による神通力について見ていただきましたが、いずれにおいても、正しい修行を行なうならば、必ずこうした神通力が得られると示されているのです。

◉――チャクラ開発が神通力の決め手

それでは、どうしたら神通力が得られるのでしょうか。まず、神通力獲得に欠かせない、チャクラ[20]についてお話しすることにいたしましょう。

チャクラとは、人間の身体にある霊的なセンターで、すべての方がそれぞれの場所に持っています。しかし、普通一般の方は、このチャクラが眠った状態で働いていません。

まず、チャクラについて見てみましょう。

人間の主なチャクラは、次の七つがあります。それは、ムーラダーラ・チャクラ、スヴァディスターナ・チャクラ、マニプーラ・チャクラ、アナハタ・チャクラ、ヴィシュッダ・

チャクラ、アージュニャー・チャクラ、サハスラーラ・チャクラの七つです（図1参照）。このチャクラは、下位に位置するものに比べ、上位へ行くほど次元が高くなります。そして、このチャクラを開発していくことによって、様々な神通力が得られるようになるのです。

それでは、各々のチャクラはどのような神通力を司っているのでしょうか。『シヴァ・サンヒター』に従って、それを挙げてみましょう。

〈ムーラダーラ・チャクラ〉
- ダルドリー・シッディ[21]
- 過去、現在、未来の出来事を、その原因をも含めて知り尽くす
- 一次元的望みがすべて実現する
- 高位の神霊を見ることができる

〈スヴァディスターナ・チャクラ〉
- 多くの異性に愛される
- 不老長寿を得る

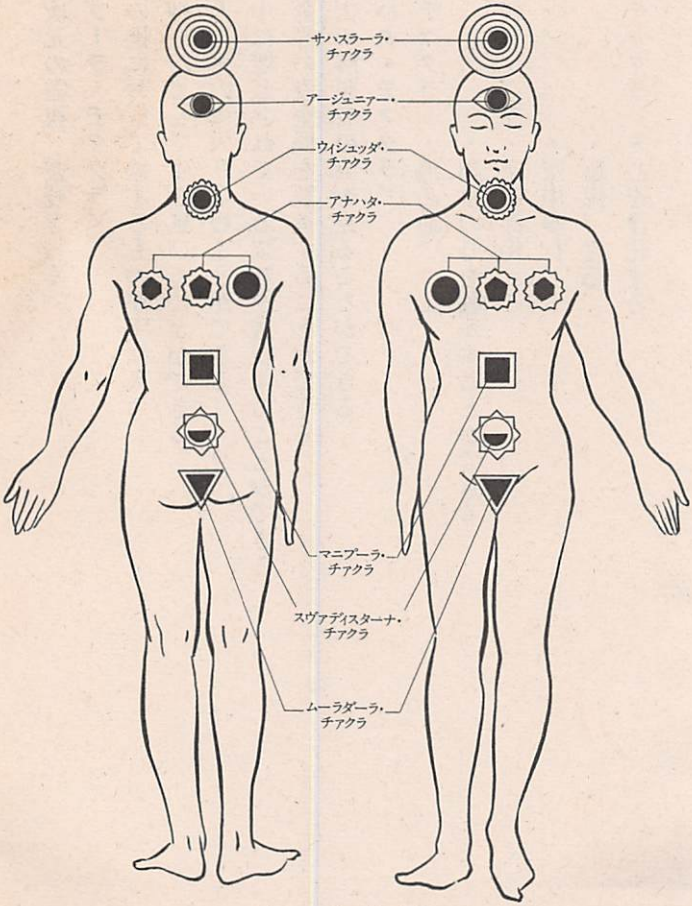

サハスラーラ・
チャクラ
アージュニアー・
チャクラ
ウィシュッダ・
チャクラ
アナハタ・
チャクラ
マニプーラ・
チャクラ
スヴァディスターナ・
チャクラ
ムーラダーラ・
チャクラ

図1　チャクラ図

・低次元の霊視、霊聴を得る

〈マニプーラ・チャクラ〉

・この世において欲するものが手に入る
・死神をだまして生き延びることができる
・他人の体内に入り込むことができる
・地中に埋蔵されている宝物を透視することができる
・黄金等の貴金属を製造することができる
・過去の解脱者の姿を見ることができる

〈アナハタ・チャクラ〉

左のチャクラ　・他心通
・相手の心を動かすことができる
中央のチャクラ・空中浮揚
・空中歩行
・遠視、遠聴
右のチャクラ　・心を浄化する

〈ヴィシュッダ・チァクラ〉

・不老不死
・意のままに世界を支配できる
・全身が快感状態になる
・死後も肉体をミイラ化して、何千年もこの世に残しておける
・動植物と会話ができる

〈アージュニァー・チァクラ〉

・自分の内側にいる守護神と外側にいる守護神を見ることができる
・微細物質を見ることができる
・今までについた超能力がさらに磨かれていく

〈サハスラーラ・チァクラ〉

・体をきわめて小さくしたり、大きくしたりできる
・体を軽くさせたり、重くさせたりできる
・どこへでも好きな所へ行ける
・どんな望みでも実現できる

・どんな物でも作り出せる
・万物を意のままに動かす

◉――クンダリニー覚醒によってすべてが始まる

それでは、チャクラを働かせるためには、どうしたらよいのでしょうか。チャクラ開発には、まずクンダリニーの覚醒[22]が欠かせない条件となります。

クンダリニーとは、人間の霊性を高める宇宙的エネルギーです。すべての人がこのエネルギーを持っていますが、普通はムーラダーラ・チャクラで眠った状態にあります。そのクンダリニーを覚醒させて、霊性を高めることが、神通力獲得の第一歩となるのです。

その前に、三つの気道について説明しておきましょう。

人間の身体の中には、七万二千本もの管が通っています。その中でも重要な管が、ピンガラ管、イダー管、スシュムナー管[23]の三つです（図2参照）。このうち、ピンガラ管は火、イダー管は水を象徴しています。

そして、クンダリニー覚醒の前には、必ずこのピンガラ、イダー両管の浄化が起こります。このことを〈火と水の洗礼〉[24]といいます。〈火と水の洗礼〉とは、霊的進化に向けて

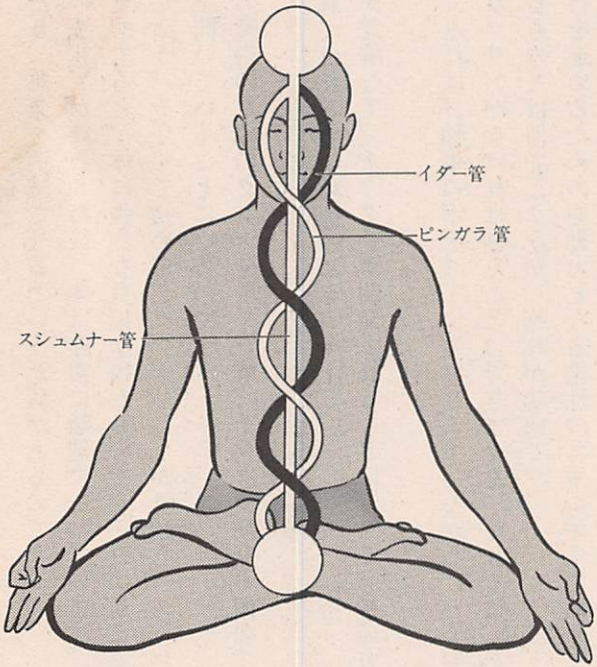


図2　気道図

の準備段階に当たり、悪業を消滅させるという意義があるのです。

この〈火と水の洗礼〉が終わった後、体は非常に頑健になっています。つまりこれは、クンダリニーが覚醒すると、体に強烈な負担が掛かるので、それに対する準備であるということができましょう。そうして初めて、クンダリニーが覚醒し、スシュムナー管を上昇し、各チャクラを開いていくことになるのです。

これが、神通力獲得のためのクンダリニー覚醒、チャクラ開発の概要です。

◉――忘れてはならない功徳のエネルギー

クンダリニーが覚醒して、チャクラが開発されることによって、神通力獲得の土台はでき上がりました。

これは、例えてみれば自動車のボディーに当たります。しかし、いくら自動車のボディーができても、ガソリンがなければ動くことはできません。それでは、その必要不可欠なガソリンに当たるものとは何でしょうか。それが功徳(くどく)[25]です。

功徳とは、修行を進めるための原動力となる善性[26]のエネルギーであり、物事を照らし出す働きがあります。

例えば、人間の心というものは、良いことをすれば明るくなりますし、悪いことをすれば暗くなります。すべての神通力というものは、この明るさ、功徳のエネルギーが基本になるのです。

具体的に述べるならば、遠隔透視の神通力の場合、遠くのものを見るとき明るくないと見えないように、ここでは光が必要になります。その他すべての神通力についても、同じように明るさが必要だと言えるのです。

それでは、仏教とヨーガにおいては、どのような修行によって功徳が蓄えられるのでしょうか。

まず、大乗仏教の「六つの極限的修行」[27]においては、布施・持戒という修行が挙げられます。また、『ヨーガ・スートラ』の八部門[28]では、禁戒・勧戒という修行が挙げられます。

そして、これらの功徳に関する修行は、仏教でもヨーガでも各々一番最初に登場するものであり、それだけ重要視されていると言えるのです。それは、功徳を充実させ幸福に導くための、とても大切な基礎であるからです。

もし、あなたが修行を進めて、より多くの神通力を手に入れたいと思うならば、功徳のエネルギーをいっぱいに蓄えなければなりません。そして、一度神通力を使ったならば、

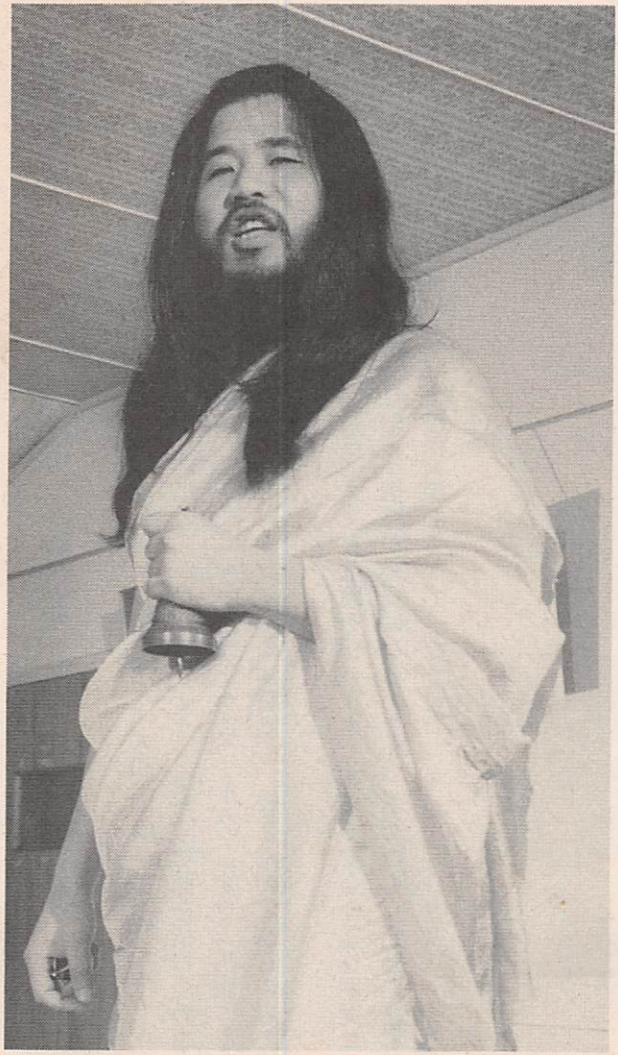
また新たに功徳を積んで、そのエネルギーを補っておくことが必要です。あなたが常に功徳を積み続けながら、功徳を使っていくならば、思いのままの人生を歩むことができるでしょう。

◉――神通力獲得へのお誘い

神通力を得るためには、クンダリニーの覚醒やチャクラの開発といった霊性向上と、功徳という善性のエネルギーの蓄積が必要不可欠になります。

それでは、具体的にはどのような修行をしたらよいのでしょうか。

いにしえより、霊性の向上は秘儀とされ、口頭伝授のうちに伝えられてまいりました。なぜなら、霊性向上のためには、行法や功徳の上に、さらに書物では伝達不可能な数々のイニシエーション[29]が必要となるからです。イニシエーションとは、グルが弟子に与える、エネルギー移入や瞑想の許可といった秘儀伝授のことで、短期間で修行を成就させるためには、欠くことができません。事実、麻原尊師の主宰するオウム真理教では、数々のイニシエーションにより、多くの方々が短期間に霊性向上を成し遂げ、あらゆる神通力を獲得していらっしゃいます。



こうしたイニシエーションをかんがみますと、どうしても書物の限界ということに思い至らずにはいられませんが、詳しく知りたいとお望みの方のために、ここでいくつかの書物をお勧めしておきましょう。

霊的覚醒を促す行法に関しては、『超能力・秘密の開発法』[30]（大和出版）『生死を超える』[31]『超能力・秘密のカリキュラム』[32]（オウム出版）が良いでしょう。また、功徳を積むための禁戒や勧戒に関しては、『イニシエーション』[33]『マハーヤーナ・スートラ』[34]（オウム出版）をご参照ください。また、そこに掲載されている数多くの体験談も、皆さんのご修行の参考になることでしょう。

生かじりの知識に基づく霊性開発は、大変な危険を伴います。確実で安全な霊性開発には、すべてを知り尽くした解脱者による指導が必要になるのです。あなたも、正しい指導により、霊性の向上、神通力の獲得を実現なさってください。

第二章

神通力、麻原彰晃が魅せた驚異の実体験

第二章では、
麻原彰晃尊師の神通力のエピソードを
弟子達に語っていただきました。

これらは、尊師がお見せになった神通力の
一部にすぎませんが、
少しでも尊師の琴線に触れていただけたらと思います。

神足通

じんそくつう

◉――奇跡！空中浮揚　　ブラフマニー大師

六十年二月の寒い夜のことでした。冷たい空気をものともせず、窓を開け放して、私達はムドラーの修行に励んでおりました。尊師も水泳パンツ一枚で修行していたのです。

私達は修行を終えて、夜食を取っておりました。すると、尊師が修行なさっている隣の部屋から、急にドンドンドンドンという激しい音が聞こえてきました。

「何をやってんのかなあ」と思って入ってみると、尊師は荒い呼吸で大変興奮していらして、こうおっしゃいました。

「自然に体が跳ねるんだよ。」

それを聞いたときは、「そんなことってあるのかな」と思いました。そこで、尊師のそばで見ていたのです。

プラーナーヤーマを始めて、しばらく精神集中すると、体が跳ね出しました。その頃、

尊師の体重は七〇キロくらいだったのですが、そうした重さが引力に反して弾むということに、私は驚いてしまったのです。

それが、初めてのダルドリー・シッディでした。それからしばらくして、空中浮揚が起こったのです。

それは、皆で修行をしていたときでした。

尊師が瞑想に入られると、突然尊師の体が振動し始めたのです。その日の振動は、もう尋常ではなくて、体がゴムまりのように、ボンボン縦に移動して、縦に跳んだと思ったら前に進んだりとか、横に進んだりとか、すごい勢いで跳ねていました。

あっけに取られてそれを見ていたら、突然フッと静まったのです。その瞬間に、スーッとお尻から浮かれて、地上三〇センチくらいのところにピタッと止まりました。秒数にしたら三秒くらいでした。そして降りるときも、スーッと静かに着地したという感じでした。

もう私達は皆「ワーッ」と驚いてしまいました。それが、空中浮揚を最初に見たときの状況です。

その後、何回かそんな状態があって、徐々に飛距離が上がっていきました。最初見たときは三〇センチくらいでしたけど、五〇センチ以上上がるようになりました。また、静止

する時間も延びてきたのです。

なかでも驚くのは、飛ぶ瞬間がよくわからないということです。脚で床を蹴る気配もなく、気が付くと浮いてしまっているのです。また、高く上がったときの方が、着地するときの音が小さいということも不思議に思えます。力で跳び上がるのでしたら、そんなことは決して起きませんよね。

また、空中浮揚が起きるときには、場の雰囲気が変わって、そこの磁場が変わるみたいです。隣の部屋から私達は見ていたんですけれども、尊師の体をジーッと集中して見ていると、白い光が放射状に発散していくのがわかりました。

空中浮揚の現場に立ち会うことができたのは、今思うと、とてもラッキーでした。

◉――空中歩行の真相　二宮耕一

和田平でのセミナー[35]のことです。『マハーヤーナ』[36]の写真撮影のため、私達は山頂へ向かっていました。四時からキャンプ場で質疑応答が始まるため、あまり撮影の時間がなく、みんな気がせいていました。

「皆さんを待たせては申し訳ないから急ごう。」

そう尊師はおっしゃると、木の葉が風に流されるように、スーッと前へ出始めました。すると、五〇メートル、一〇〇メートルと、みるみるうちに私達は引き離されていきました。途中まで走って追い掛けましたが、やがて尊師は見えなくなってしまいました。

それは、足が宙に浮いている形で歩かれるんです。そして、どう見てもゆっくり歩いているとしか思えないのに、実際はものすごいスピードで、私達は走らないと付いていけないんです。それはちょうど、歩くというよりも、帆掛け舟が風に吹かれて飛んでいったと言った方が正確かもしれません。

後でお聞きしたところ、これはチベットで「風の瞑想」[37]といわれているもので、風エネルギーをコントロールすることで身につく神通力だそうです。

◉――尊師の姿が消えた！　　ケイマ大師

渋谷のマンションで修行をしていた、ある夜のことでした。

そのときは瞑想の時間で、瞑想に入りやすくするため電気は消していました。それでも、窓から差し込む街の明かりで、部屋は薄明るくなっていました。

尊師は一人で壁際に座られて、私達はもう一つの部屋で尊師に相対していました。

尊師が瞑想を始めると、白とか金色のエネルギーが、だんだんと尊師の周りを取り囲んで、渦巻いていきました。ちょうどアナハタ・チャクラからそのエネルギーが出ていて、体が霞んでいきました。

そして突然、尊師の姿がフッと消えたのです。

みんな非常に驚きまして、「あれ、尊師が見えない。おかしいな」ということで茫然としていました。

初めは、「出ていかれたのかな」と思ったのですが、小さな部屋ですから、出ていかれたのなら気配ですぐわかるので、そのようなことはありません。そのうち、尊師の姿が現われたり消えたりしました。それでは、光の加減じゃないかと思って、それを確認してからもう一度目を凝らしたんですけど、やはり同じでした。

私には尊師のエネルギーがよく見えていたのですが、そのエネルギーが首から上を覆うと、その瞬間プラーナごと、その部分が闇に溶け込んでしまうのです。そして体が見えなくなってしまうのです。

上半身だけ、下半身だけという形で消えるときと、全身が消えるときがありました。全身が消えるときは、尊師の体全体が金色もしくは白銀色に輝いたかと思うと、次の瞬間にはパッと全身が見えなくなってしまうのです。

このときは、二十人余りの前で公開したのですが、その全員が姿が消えるという奇跡を目の当たりにして、驚いていました。

◉――**雨に濡れない尊師**　　**中村　昇**

六十一年の夏のセミナーのことです。

小雨の降りしきる中、尊師は私達が五体投地(ごたいとうち)[38]を行なっている広場にいらっしゃり、お話をされました。

私達はずぶ濡れでしたが、尊師は傘も差さずに小雨に打たれていたにもかかわらず、全く雨に濡れません。もちろん服も濡れず、まるでバリアーで守られているかのようでした。

私達は非常に驚きました。

そして、雨が激しく降り始めると、さすがに尊師のお体もわずかに濡れ始めました。しかし、部屋に戻ると一瞬のうちに乾いてしまうのです。

後でお聞きしたところによると、この神通力は神足通の前段階で、〈気〉[39]の力により、体の周囲の雨を跳ね返してしまうものであるということです。

◉――尊師に傘はいらない　　ブラフマニー大師

尊師が雨に濡れないというのは、何度も見ています。

尊師と出掛けたとき、雨が降ってきたのです。

「どうぞ傘にお入りください。」

そう私が言うと、尊師は、

「あ、いらないよ。私は雨に濡れないから。」

とおっしゃいます。「本当かな」と思いながらも、尊師が傘を差さないなら差すわけにはいかないということで、私も傘を差さずに歩いていました。

すると、私はずぶ濡れなのに、尊師は全く濡れないのです。雨を完全にはじいてしまっ

て、髪も服も全く濡れないのです。
それを見た、私は言いました。
「尊師、便利ですね。傘なくてもいいんですね。」

◉――焼け焦げない腕　　ラクシュミー大師

渋谷にも、だんだんと信徒の皆さんが集まってきたときのことです。
尊師が「神通力でも見せようか」とおっしゃって、何をするのかと思って見ていたら、

アルコールを器に空けるんです。そして、そこに腕を入れられて、ローソクの火を移しました。瞬く間に腕は炎に包まれ、尊師はよく見えるようにと、腕を肩の高さにまで上げられました。

当然腕が燃えているわけですから、ものすごく熱いのですが、尊師は平気な顔をしていらっしゃいます。我慢している様子などまるでなく、いつも通りのお顔なんです。これで、制感(40)の行ができていらっしゃるということがはっきりとわかりました。

そして、その青白く綺麗な炎は次第に弱まって、ついには消えてしまったのですが、腕には跡一つないのです。普通はあれだけの炎ですから、やけどをしたり、水ぶくれができたりしますけど、腕はなんともないのです。赤くもなっていません。

エネルギーが満ちあふれているときだけ、こうしたことができるというお話でした。

◉——変化身での会話　ウッパラバンナ大師

私の変化身(41)が、尊師のお部屋をお訪ねしたときのお話です。

ある日、尊師とお話しした後、どうしてもお伝えしたいと思うことが出てきました。しかし、そのとき尊師はお忙しかったので、また次の機会にしようと思い、私は瞑想を始め

ました。

瞑想の後、シャヴァアーサナ[42]をとっていると、変化身が抜け出しました。どうしてもお伝えしたかったのでしょう。私の意識は変化身に移り、私は変化身で自分の部屋を出ました。そして、尊師がいらっしゃるお部屋のドアを開け、尊師の前に立ち、私の考えていることをお話ししたのでした。そのときの尊師は、座っていらして、体からまばゆいばかりの光を発していらっしゃいました。伝え終わると、私はドアを閉め、自分の部屋に戻りました。

すると間もなくして、電話のベルが鳴りました。それは、尊師からのお電話で、こうおっしゃいました。

「さっきここに来ただろう。ここに立って、こんなことを言ってたぞ。」

そして、尊師は私の話したことを復唱してくださったのです。

後でお聞きすると、尊師は自らも変化身で、私に応対されたということです。

天耳通

てんにつう

◉——尊師からの戒め　　中村　昇

その日私は、セミナーで食事の手伝いをしながら、他の人とのおしゃべりに夢中になっていました。

そしてその手伝いが終わって部屋へ戻るとき、尊師とすれ違ったのです。そのとき尊師に、

「口の修行の方は進んだか。おしゃべりはアストラル・エネルギー[43]のロスになるから、無駄口は控えなさい。」

と、厳しく言われました。まるでそばで聞いていらしたかのようです。

私は、「グル[44]はいつでも私達をご覧になっておられるのだ」と思いました。そして、尊師は弟子が何をしているかをすべて把握していらっしゃるということを、そのとき改めて認識したのです。

◉――聞かれていたおしゃべり　　西沢直人

六十一年六月の丹沢のセミナーでのことです。

川っぷちにあるベンチのところで、友達と二人で雑談をしていたんです。そこから、青山荘の尊師の部屋までは、一〇メートルくらいあるのです。

小声で話していたんですが、非常にひどいことを話し始めました。真理を否定するようなことを、小さな声で話し始めたのです。その瞬間、尊師がガラッと窓を開けて、

「おしゃべりは楽しいですか。」

とおっしゃったのです。

もう、心臓が止まるかと思ったくらい、驚いてしまいました。すごいタイミングなんですよ。尊師は普段そんなことなさらないのに、いきなり出ていらしたんですから……。

◉――頭の中の曲を聴き取る　　山田泰明

私が尊師をご自宅から送り迎えしたときのことです。

隣に座っていらした尊師が、急にテレビ・アニメのテーマソングを口ずさむのです。それは、私が昔よく聴いていた曲でした。

「どうしたんですか。」
と私が聞くと、
「いや、泰明の頭の中からこの曲が聞こえてきてな。」
と、尊師はおっしゃるのです。どうやら尊師は、私のコーザルのデータ[45]を読み取ったらしいのです。
あと、こういう話もありました。
六十二年の冬のことです。オウムのスタッフは、自らの修行のため、一般世間の音楽を聴いてはいけないことになっています。ところがそのときは、スタッフのある人が、ビートルズの『レット・イット・ビー』を聴きながら、否定的な話をしていたのです。すると、尊師から急に電話が来て、こうおっしゃるんです。
「『レット・イット・ビー』もいいけど、ちゃんとやれよ。」
そのとき、尊師は自宅にいらして、そこからは二〇〇キロ以上も離れていたのです。
また、こういう話もあります。
尊師とラクシュミー大師が九州へ行かれる飛行機の中でのことです。尊師はお疲れで、すっかりお休みになっていました。ラクシュミー大師はふと、「ジャズを聴こうかな」と

思ったそうです。

結局聴くのはやめたそうですが、尊師は目覚められると、こうおっしゃるのです。

「ラクシュミー、お前ジャズを聴こうとしてたんじゃないか。」
尊師には、ラクシュミー大師の頭にあったジャズのメロディーが聞こえていたそうです。

◉尊師に伝わったメロディー　ウッパラバンナ大師

「龍宮の宴」[46]が終わって間もない頃に、こんなことがありました。
私の心は軽く、明るく、そのときは苦というものを全く感じていなかったのです。そして、いつもどこからともなくアストラル音楽[47]の『花園の妖精たち』のメロディーが頭の中に流れてくるのでした。
そのときそばにいらした尊師の、
「ウッパラバンナのそばにいると、『花園の妖精たち』が聞こえるなあ。今は楽しくてしょうがないんだろう。苦がないからうきうきしてるんじゃないか。」
というお言葉。まさしくその通り。
その後私は、現実の生活では苦しんでいる人々がいることを忘れないように、というアドバイスをいただいたのでした。

他心通

たしんつう

◉――さりげなく他心通　　アングリマーラ大師

六十二年の十月、マイトレーヤ大師と私が尊師のお部屋にいたときのことです。そのとき私達は、今後のオウムのことについていろいろと話していました。すると、急に尊師が天井をご覧になって、

「おっ、ミラレパが意識している。電話がかかってくるぞ。」

とおっしゃいました。

「はあ？　何ですか。」

私達は何のことかわからず、キョトンとしていました。すると、二十秒もしないうちにプンナ大師が来られ、

「尊師、お電話です。ミラレパ大師からです。」

とおっしゃったのです。

マイトレーヤ大師と私は、驚いて顔を見合わせました。
「ときどきお前達にも、こういう神通力を見せないといけないからなあ。」
笑いながらおっしゃる尊師に、私達は、
「尊師、いつも見せられていますから、わかっております。」
と答えました。
いつものことながら、改めて尊師のすごさを感じました。

◉――**手渡されたおまんじゅう**　　**コーンダンニャ大師**

今までに私が強烈な印象を受けた尊師の神通力は、次のような他心通でした。
私がスタッフに入って、営業のワークで書店回りをしていたときの出来事です。時期外れの暑さの中、いつも通り書店回りをしていましたが、その日はすごくおまんじゅうに執着していました。しかも、街角でよく目に付いておいしそうに見えていました。
予定していた書店をすべて回り、事務所に帰ってきましたら、尊師がタイミングよく表に出てこられて、
「これが食べたかったんだろう。」

とおっしゃり、私におまんじゅうを渡されました。私は唖然として、その場に立ちすくんでしまいました。

こうした遠隔他心[48]と言えるものは、他心通の中でも本当の他心通であるということです。すべてをお見通しの尊師。このときほど尊師の神通力をすごいと感じたことはありません。

◉――他心通の正確さ　ウッパラバンナ大師

尊師がある日、Tさんという女性のイメージを私に尋ねられたときのことです。

その女性は、私がまだ一度もお会いしたことのない方でした。私は答えるために、頭の中でその女性のイメージを箇条書きにしていました。

すると尊師は、

「ウッパラバンナが想像しているTさんは、もの静かで、忍耐強く、夫によく従い、家庭をしっかりとやりくりするような良妻賢母だろう。」

とおっしゃったのです。私は、一語一句間違っていない尊師のお答えに、ただ、「はい」としか答えることができませんでした。しかもイメージした順序まで正確だったのです。

この他心通の正確さには、本当に驚きました。

◉――彼女への思いに捕らわれて　保田英明

六十三年二月、「龍宮の宴」の前のことです。

その頃、私は精神が不安定な状態にありました。オウムのスタッフになろうとしている彼女と、オウムを飛び出して結婚しようとしていました。

すると、いきなり私のところに尊師が、

「保田はいるか！」

と、怒鳴り込んできたのです。

「お前、彼女が真理の道に入ろうとしているのに邪魔する気か。そういう奴は菩薩失格だから、オウムをやめるなら今やめろ。」

誰にも話していないのに、ズバッと言われたものですから、すごく驚きました。

後で聞いたところによると、尊師はそのとき寝ていらして、ふと目覚めるなり、「保田はいるか」とおっしゃったらしいんです。きっと、アストラル世界[49]で何かご覧になったんだと思います。

そして、同じ年の三月のことです。

外はふぶいているという、大変寒い日のことです。私は高熱を出して、体調を崩してい

たのです。そんな状態でも、彼女に電話をしに行こうと思っていました。

すると、いきなり無線が入りまして、

「保田！　お前、そんな状態で彼女のところに電話しに行ったら、死ぬぞ！」

と、尊師に怒られました。ただ思ってるだけで、怒られたんですよね。

他にも、「電話しようかな」って思っていると、連絡が入るってことがありました。ほんと、驚くことだらけでした。

◉――隠しきれない引っ掛かり　二宮耕一

オウムのサンガ[50]に入ってすぐのことです。

その頃の私は、親子の縁で引っ掛かっていたんです。そんなとき、尊師がいらして瞑想指導をしてくださいました。

その瞑想とは、四無量心[51]の平等心についてのものだったのです。その中で、親子の縁についての話があったのです。それを聞いたら、私の中にあった、親子の引っ掛かりがスパッとなくなったのです。

尊師のご指導が終わって、サンガの連中がずらりと並んでいるのですが、尊師は私の前

で止まり、
「わかったか。」
とおっしゃいました。私の心の揺れは、すべて見抜かれていたのです。
あと、私が一人で仕事をしていたときのことです。尊師がいらして、私にアドバイスをしてくださいました。
「お前はこういう性格だ。それを××というんだよ。」
そういうようなことを言われたんですが、私はその××という単語の意味がよくわからなかったのです。そこで私は、「そうなんですか」と言いながら、後で辞書で調べようと思っていました。
すると、その後の夜礼の中で、尊師はこうおっしゃったのです。
「二宮みたいに、いちいち漢字を辞書で調べないで、さっさとやればもっとスピーディーに行くんだがなあ。」
つまり、私が心の中で辞書を引こうと思っていたことが、すっかりばれていたのです。

◉――読まれた精神状態　村井秀夫

尊師には、会った瞬間にすぐ精神状態を読まれてしまいます。

あるとき尊師がいらして、

「今日はムッとした波動を出しているな。」

とおっしゃったんです。すると私は、

「ムッとなんかしてませんよ！」

と言ってしまったんです。そんなことがありました。

幸せなときには、「すごく明るい」とおっしゃいますね。

◉――業者の原価を読み取る　片山美穂子

六十三年一月のことです。

「龍宮の宴」のチラシを新聞に折り込むため、尊師は業者と値段交渉をしていらっしゃいました。業者の方も商売ですから、なかなかまけようとはしません。何度交渉しても、

「それ以上おまけしたら、利益が上がりません。」

と、こんな調子なのです。そんなとき、尊師はこうおっしゃったのです。

「いや、お宅の仕入れ値は一円××銭でしょ。だからこれだけこちらが払えば、二十銭のもうけは出ますよね。」

相手の方はこれに驚いて、結局ギリギリまで割り引いてくれたんです。

電話が終わってから、尊師はにっこりして、

「ああ、私はまた神通力を使ってしまった。仕入れ値がいくらかというのは、本当は知らないんだよ。」

とおっしゃいました。

おそらく、相手の方が心の中で「仕入れ値いくら、もうけがいくら」と計算していたのを、尊師は読んでしまわれたのでしょう。

◉――伝わってしまう心の状態　石原和夫

私が最初のシャクティーパット[52]を受けてから、一ヵ月ほど経ったときのことです。

その頃、私の精神状態は安定していて、あまり物事にこだわらなくなってきました。たとえ悪い状態になっても、後まで尾を引かなくなってきたのです。

そんなとき、二回目のシャクティーパットを受けたのですが、尊師はこうおっしゃいま

した。

「あまり物事にこだわらなくなったんじゃないか。」

すべて読まれてしまうのです。

あと、怒っている人がいると、尊師から「あまり怒るなよ」という電話がかかってきたりします。そういったことは、何度もありました。

宿命通（しゅくみょうつう）

◉――女性に撃ち殺された私　　井上嘉浩

尊師に初めて会ったときのことです。私はいきなり尊師から、

「君は前世でチベットの修行者だった。」

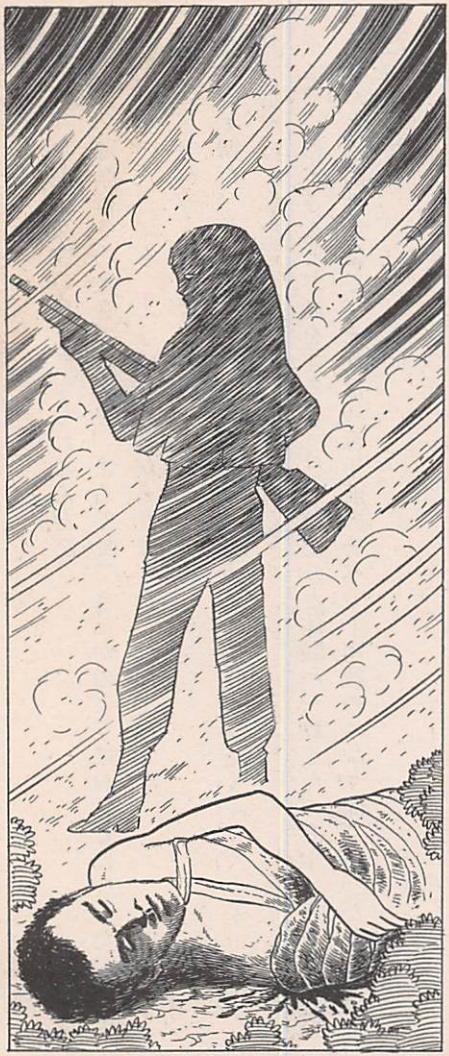
と告げられました。

そのとき、私は身震いが止まりませんでした。私の最も深いところにある魂が、その言葉に感応したかのように……。

それ以来、私は修行に打ち込み、〈風（ふう）〉のステージ[53]に入りました。そして、断片的に過去世（かこせ）を思い出し始めたのです。

ある所で生活していて、やがて死に、また場面が変わって私がいるというように、一つ一つの生の断片的記憶がリアルに思い出されました。

そんなある日、私はチベット僧の格好をしている前生夢（ぜんしょうむ）[54]を見ました。



私のそばには弟子が二人いて、草原みたいな所を托鉢して歩いているんです。すると、振り返った途端、銃撃の音がしたのです。私は、何があったのかよくわからず、何も感じませんでした。ただそのとき、私はなぜか哀れみを覚えたのです。

そこで、尊師に「前生夢を見ました」と言うと、私がその内容を話す前に、こうおっし

やいました。
「そうだ。井上は女性の兵士に撃たれたんだ。」
そして、尊師はそのときの状況を、まるで見てきたかのようにお話しになったのです。
六十一年の八月にも、こういうことがありました。
尊師に、チベット僧の夢をお話しすると、
「チベット僧だったことは、杉本と関係があるから、話をするといい。」
とおっしゃいました。
そこで、杉本さんとお話をすると、私とぴたりと体験が一致したのです。そうした後、杉本さんとは前世兄弟で、それは八百年前のチベット密教のニンマ派[55]であったと教えていただきました。

◉――裏切り者を始末した私　二宮耕一

私が見た前生夢のことです。
私は、グルの命令によって、裏切り者のチベット僧を特殊なナイフで刺し殺しました。
その裏切り者の僧を殺さなければ、何百人もの仲間が殺されてしまうのです。

私は追われて追われて、ようやく山の中にある尊師の家にたどり着きました。そして、家の中に入って必死に尊師を呼びました。すると、尊師がニコニコしながら私の前に現われたのです。

「人を殺しました。」

私がそう言うと、尊師はグリーンの巻物を見ながら、

「私にはどうすることもできない。」

とおっしゃったのです。追い詰められていた私は、絶望感の中で立ち尽くしていました。

この夢を尊師に話し始めると、

「ふーむ、やっぱりカギュ派[56]か……。」

とおっしゃいます。

そして、話が進んでいくと、尊師はこうおっしゃるのです。

「それは違うよ。あれは見捨てたんじゃなくて、一種のマハー・ムドラー[57]だったんだ。」

そして、いろいろと状況を確認なさるのですが、それはまるで一緒に見ていたような感じで正確そのものでした。

天眼通

てんげんつう

◉――わかっていた交通事故　　ケイマ大師

六十二年十月の秩父のセミナーの帰りのことです。

そこでは、スタッフが十台くらいの車に分乗して帰ることになっていました。

そのとき、尊師はこうおっしゃいました。

「Tさんが事故を起こすんじゃないか。」

そして、運転させない方が良いとおっしゃるので、私はその旨を伝えに行きました。しかし、何らかの手違いによって、Tさんは運転することになってしまったのです。

帰りの車の中で、尊師は何度か「Tさんは大丈夫か」とおっしゃっていました。そして、道場に戻るやいなや、尊師は電話をかけ、その確認をし始めたのですが、案の定Tさんは事故を起こしていたのでした。

何度見ても、こうした尊師の神通力には驚かされます。

◉――交通事故とカルマの構図　　ミラレパ大師

「事故を起こすから、チェーサーを使いなさい。他の車だと危険だからね。」

Iさんが富士から東京へ向かう前日、尊師は電話でこうおっしゃいました。Iさんが「心の弱さ」という悪いカルマを持っていて、そのカルマが「事故を引き起こす」というのです。そのことがわかっていたので、尊師は事故の被害を最小限に食い止めようと、頂丈なチェーサーに乗るように指示されたのでした。

果たして、尊師の予言していた事故は当日に起こりました。

Iさんは、事故のことを次のように話していました。

「時速一五〇キロで走っていると、突然意識がアストラル世界に飛んで、事故のヴィジョンが見えてきたのです。これはまずい、と思ってブレーキを踏んで減速し始めたのですが、一三〇キロに落ちたところで、水たまりに入ってしまい、ブレーキが利かなくなってしまいました。そこで、慌てて自動車の側面を中央分離帯にぶつけて止めたのです。これが事故のあらましです。幸いにも、尊師のご指示通りチェーサーに乗っていましたので、他に被害は及ばず、私も同乗のMさんも怪我はありませんでした。」

そして、Iさんはフェンダーがボロボロになったチェーサーに乗って、東京へと向かっ

たのです。

「あっ、着いたぞ。」

尊師がそうおっしゃいました。でも、チャイムも鳴らなければ、物音もしません。私は「そんなことはないでしょう」と思いながらも、ドアを開けたのです。すると、Iさんが立っていて、こう言います。

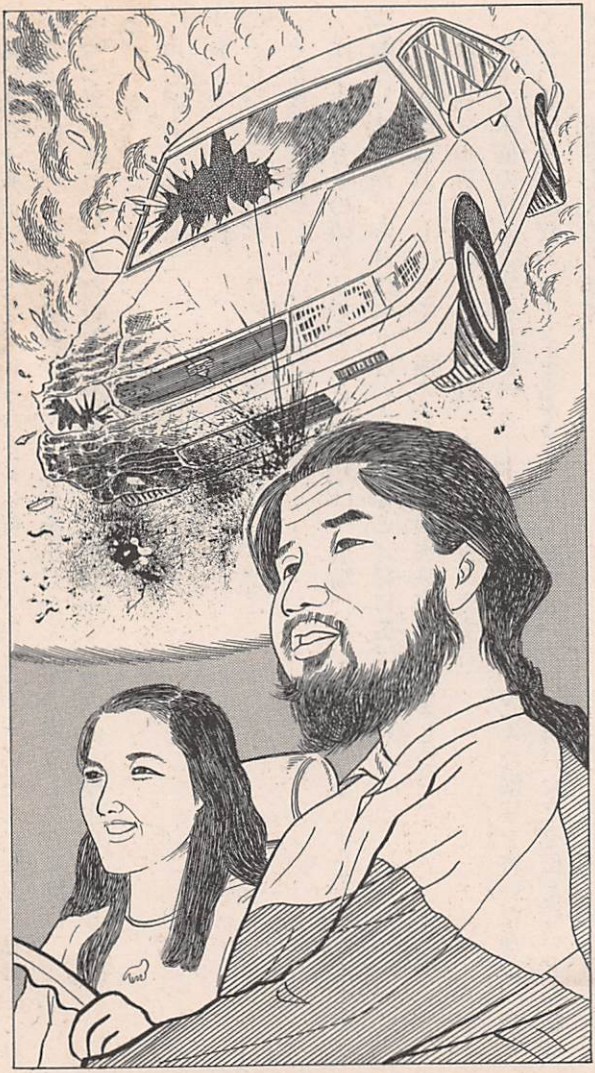
「事故を起こしました。」

私は、すべてをはっきりと見ていらした尊師の神通力に、改めて敬服した次第です。なお、尊師によると、あのとき思いきりポンピング・ブレーキを踏み続けていれば、事故は防げたそうで、それができなかったのは「心の弱さ」のためだということでした。

◉――ひょうきんな透視実験　　ブラフマニー大師

透視実験は、渋谷のマンションの頃よくやったものです。数字当てとか、梵字当てとか、色当てなどがありましたが、ここでは指当てと漢字当ての実験をお話ししましょう。

まず指当てですが、これは尊師が後ろを向いていて、遠くで出した指の本数を当てるというものです。



みんな指を垂直に立てるというルールに従って、指を出していたんですが、私は「これならどうだ！」と思って横向きにVサインを出したんです。そうしたら尊師は、
「ウン？　これは二本だけど、おかしい。形が違ってるぞ。何か操作しているな。」
とおっしゃったんです。私はばれたと思い、
「申し訳ありません。」
と謝りました。
「そうだろう。二本だけど、形が横向きだからな。」
そう尊師はおっしゃいました。
漢字当てもその頃の話です。その日私は、道場に行くのが遅くなってしまったんです。
「おう、来たか。今日はもう遅いから、私と一緒に遊ぼう。」
そう尊師はおっしゃって、漢字当ての透視実験が始まりました。
漢字当ての透視実験というのは、こういうものです。
まず、木偏の付く文字を数枚のカードに書き込みます。どんな漢字を書いたかは、決して言いません。数枚のカードを当てるだけでも難しいのに、書いた字を伝えないとなれば、それは一層難しくなります。

そして、真ん中に置いた座布団の上に、裏返しにして出すんです。私が見てしまうと、テレパシー[58]で伝わってしまうので、よく切ってわからないようにして出すのです。

「これは〈桐〉かな。」

ひっくり返すと、確かに〈桐〉です。

「これは〈桜〉だろう。」

まさしく〈桜〉です。

そのように、尊師は目を閉じて、精神集中して当てるのですが、結果は百発百中。特に、読みにくい字などは、「ここに点々があって」とか、「こんな形だなあ」とかおっしゃるんです。

透視実験はいろいろとやりましたが、どれも百発百中でした。

◉――手のひらの孫悟空　ミラレパ大師

六十一年の夏、インドの超能力者パイロット・ババが、「オウム神仙の会[59]」の集中セミナーに来られたときで、私がまだスタッフに入る前のことでした。

パイロット・ババの花束とレイを買うために、丹沢の青山荘からふもとの花屋に行くこ

とになり、私はそのとき麻原尊師と一緒の車に乗る機会に恵まれました。その三時間ほど前には、杉本さんともう一人のスタッフが、パイロット・ババを出迎えるために成田空港へ向けて出発していました。

「杉本が困っている。何かあったな。」

と、麻原尊師が突然車の中でおっしゃいました。

私達にはその言葉の真意がわかりませんでした。なぜなら、彼らは十分に時間的余裕を持って出ていったからです。続いて、

「パイロット・ババがこちらを意識しているのが見える。杉本達がまだ空港に着いていないに違いない。」

とおっしゃったのです。

私達がちょうど青山荘に戻ったとき、電話のベルの音が静かな青山荘にこだましていました。そのベルの音が止まったかと思うとすぐに、

「麻原尊師、杉本さんからお電話です。」

と、弟子の声。

尊師は「そうか」とお答えになりながらも、私の目には、尊師が、もう事の次第をすべ

て知っていらっしゃるように見えました。

電話を切ってから、尊師は私達の方にいらして、

「思った通りだ。やはり渋滞に巻き込まれていたそうだ。これが本当の天眼通だよ。そして、このような力は、私の周りにいる人達はいつでも見ているんだよ。」

とおっしゃりながら、私達に向かってニッコリほほ笑んでいらっしゃるのでした。私がスタッフになる決心を確固たるものにしたのは、言うに及びません。

私は、この出来事から、麻原尊師の天眼通は世間で聞くような低レベルのものではなく、他心通などの神通力が混ざった高度なものであると思いました。尊師はご自分で意思されないにもかかわらず、弟子が尊師に対して意識を向けるだけで、その弟子の状態がすべてわかるらしいのです。もちろん小さな出来事としては、昨日こういう戒を破っただろう、こういう失敗をしただろうなどと言い当てられることも度々あり、私は、自分がまるでお釈迦さまの手のひらで遊んでいる孫悟空のように感じたものでした。

◉――抜群のタイミング　　富樫若清夫

電話機の前を通り過ぎようとすると突然電話が鳴り、その電話の相手が尊師で、自分に

用があることがよくあります。尊師からの電話は実にタイミングよくかかってくるのです。

ある日、尊師がサンガにいらしたときに、マチク大師から尊師に電話がありました。大師は、ある業者と交渉する際の、商品の価格等の問題について尊師のご指示を仰いでいたのです。

電話が終わり、別の打ち合わせをしていたら、尊師が突然、

「あっ、着いた、着いた。」

とおっしゃったのです。何のことだろうと思っていると、尊師は大師の所へ電話をし、

「もしもし、業者と替わってくれ。」

とおっしゃいます。ちょうど業者が大師の所へ到着したところだったのです。私はすごい神通力だなと思いました。

また、私がアストラル・テレポーター[60]の調整に従事していたときに、こんなこともありました。

設計の根本的なことに関わるトラブルで悩み、九十三日かかってようやく原因を究明して、「やったあ！」と小躍りしていたとき、ちょうど尊師から電話があったのです。

「どうだ、直ったか。」

私は喜び一杯で、
「はい、直りました！」
と答えました。
後になってから、尊師はなぜ直ったことがすぐにおわかりになったのだろうかと、改めて驚きました。
以前、だれかから、尊師は同時に数百人の人間を把握していらっしゃるのではないかと聞いたことがあります。遠く離れていても、尊師が弟子の状態を確実に捕らえていらっしゃることが、これらのことでよくわかりました。

◉――――**ラーメン事件**　　**二宮耕一**

六十二年の冬のことです。
サンガにいた二人が、こっそりとラーメンを食べに行ったことがありました。オウムのスタッフは、買い食いや外食が禁止されているのです。
帰ってきた二人に、尊師はこうおっしゃいました。
「どうだ。ラーメンはおいしかったか。」

もちろん、二人以外のだれもこのことを知りません。こういった例はたくさんあり、悪いことをしていると怖いんですよ。

◉美女三人が……

杉本繁郎

六十一年六月のセミナーのときでした。私は二回目のシャクティーパットを受けるべく、このセミナーに参加していました。

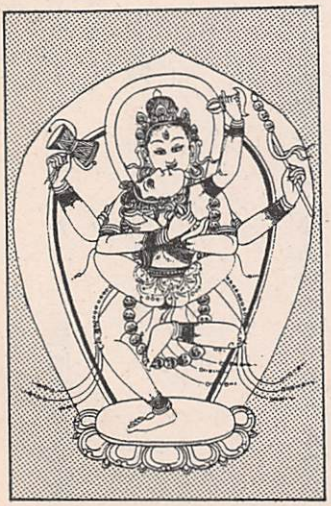
セミナーの二日目だったと記憶しています。シャクティーパットを受けながら、緊張している自分を意識していましたが、目の前がパーッと明るくなり、至福の中へ放たれました。それと同時に、眼前に三人の女性が現われ、言葉では言い表わしようのない幸せな気持ちで女性をイメージしていましたが、

「シャクティーパットのときにイメージしているとどうなるんだろう。すべて尊師に伝わるんだろうか。少しまずいな。」

と思いながらも、自分の意識は至福の中にありました。

シャクティーパットが終わり、にこやかな笑みを浮かべ、アドバイスをしてくださる尊師の口からは何も語られなかったので、

「そうか、尊師には伝わらなかったのか。」
と思っていました。
ところが、セミナーが終わり、簡単な晩餐となった折、尊師が、
「ある人にシャクティーパットをしていたとき、三人の美女が現われてな。本人の名誉のためにあえて名前は言わないが……なあ杉本。」
とおっしゃいました。そのとき、尊師に自分の心の中を完全に見透かされていたことを知りました。



◉――嘘の泥沼　　小宮健二郎

尊師に嘘をついたことがあるんですよ。私はどうも、一回言ったことは撤回するのが嫌で、そのまま嘘をつきっ放しにすることがあるんです。

あれは、高速道路でね、尊師が助手席のシートを倒して、目を閉じたまま、

「今どこだ。」

って聞かれたんですよ。そのとき私は、

「もう富士過ぎましたよ。」

って答えたんですが、まだ富士の手前だったんですよね。でも、まあいいや、わかんないだろうって甘えてたんですが、「今どこだ」「今どこだ」って何度も聞かれるんです。

そうすると、富士を過ぎてないのに、そのまま話したら嘘がばれちゃうでしょ。だから、全部嘘つきっ放しにしたことあるんです。

でも、海老名を過ぎるまで、何度も聞かれるでしょう。すごく胸が苦しくなってきて、つらかったことがありましたね。

後で聞いてみると、尊師はどこを走っているか、きちんと透視されていて、私に反省を促すためにそうなさったということでした。

◉――出会いのプログラム　　山田泰明

尊師を追い掛けてインドへ行ったときのことです。

私達は、デリーに向かっていました。この旅行は、デリーでの待ち合わせ時間だけが決まっていて、その日までは尊師に会えないということだったのです。もちろん、途中で尊師と連絡は取れません。

デリーに向かう途中の、小さな町でのことです。その町は、広い砂漠の中にあるんです。そこを歩いていると、向こうから尊師がやって来るんです。私達はもう驚いてしまって、うれしさのあまり駆け寄りました。こんなだだっ広いインドの中で、待ち合わせ以外の場所で尊師に会えるとは、夢にも思わなかったのです。

後で尊師にお聞きすると、尊師は私達がどこまで来ているかヴィジョンで見ていらして、デリーの途中で会えるようにプログラミングしたということです。

◉――ダルドリー・シッディの心遣い　　早川紀代秀

「君はあと三ヵ月で、ダルドリー・シッディが起こるよ。」

尊師にそう言われて三ヵ月経ったとき、本当にダルドリー・シッディが起こったのです。

ダルドリー・シッディなど、大阪支部では初めてだったので、誰も知らなくて、みんな驚いていたわけです。すると、尊師から電話が入りました。

「毛布を敷いてあげなさい。」

私は「誰かが電話したんやな」と思っていたのですが、誰も電話などしていないのです。尊師から突然電話があったということでした。

それを聞いたとき、「なんでわかるんや」と驚いてしまいました。

そのとき、マンションの一室の硬い床の上で修行をしていたのです。体が跳ねるたびに、お尻が痛くて仕方がありませんでした。ですから、尊師のお心遣いは非常にうれしいものとなりました。

◉――**距離を超えた共時性**　　**鎌田紳一郎**

尊師は、いつでも私達を見ていらっしゃいます。

名古屋での話です。尊師はホテルで寝ていらして、私達は名古屋支部で寝ていました。突然、ミラレパ大師が起きたのです。すると間髪を入れずに、電話が鳴りました。それは尊師からの電話で、尊師はこうおっしゃっていました。

「ミラレパが起きたのがわかったから、電話したんだ。」

私はその光景を見ていたので、なるほどと思いました。

こうしたことは、度々経験しています。部屋に戻るやいなや、自分に電話がかかってきたり、尊師の部屋の前に立っただけで、「鎌田か、入れ」と言われたりすることがあります。

あるとき、スタッフになろうとしていた人が、オウムのだれにも言わずに、インドに旅行していたことがあったのです。だれもそれを知らなかったのですが、その人に話題が及んだとき、尊師は、

「あれ、今、日本にいないんじゃないか。インドに行ってるヴィジョンを見たぞ。」

とおっしゃっていました。尊師の前では、隠し事はできないのです。

◉――すべてはお見通し　奥川浩三

私が営業をしていたときのことです。一度怠け心が出て、書店回りをサボってしまったことがあったのです。

するとその日、尊師から電話でこう言われました。

「最初入った頃は何でもするからということだったのに、今の状態は何だ。すべて知って

いるぞ。」

そう言われたときは、驚きました。だれも知らないのに、なんで尊師はご存じなんだろうと思ったのです。

尊師は、いつでも弟子の状態を把握していらっしゃいます。そして、仕事をしていないと、すぐご指摘なさるのです。

◉――ヴィジョンが決め手　ブラフマニー大師

オウムが渋谷にあったときのことです。夕方六時から始まるセミナーの準備に、私達は追われていました。

お昼過ぎのことです。奥の部屋で修行をなさっていた尊師が、こうおっしゃいました。

「もうすぐ、S君がやってくるよ。」

まだ数時間あるので、私は信じられず、「何をおっしゃってんのかなあ」と思って仕事を続けていました。

すると、しばらくして玄関のチャイムが鳴り、S君が現われたのです。S君は長野から来ているのですが、「ちょっと早く来すぎてしまいました」と言っていました。

尊師は祭壇に向かって、マントラ瞑想をなさっていたので、どうしてわかったのかが不思議でした。後でお聞きすると、S君のヴィジョンが見えたということです。

あと、探し物をしていたときのことです。

私がこの辺だなと思って探していると、尊師は「ここにあるような気がする」とおっしゃいます。まるで覚えがないので、違うんじゃないかなと思って探すと見つかったということがよくありました。

こうした天眼通の例はたくさんありますが、いつも驚かされています。

漏尽通

ろじんつう

◉――どこでもわかる成就の状態　　ケイマ大師

修行中の弟子が成就したかどうかは、どんなに距離が離れていても、尊師はおわかりになります。

アングリマーラ大師が成就したときのことです。このとき、大師は横浜、尊師は東京本部の一室にいらっしゃいました。

「あっ、アングリマーラが成就した。」

突然尊師はそうおっしゃるのです。そして、電話で状態を聞くと、やはり成就していたのです。ちょうど、三グナ[61]を霊視するという、ラージャ・ヨーガの成就の状態[62]でした。

シャンティー大師のときは、尊師はさらに遠いエジプトにいらっしゃったのです。

「シャンティーが成就したぞ。」

そういう国際電話があって、様子を見に行くと、やはり成就していました。光に没入し

た状態、すなわち、クンダリニー・ヨーガの成就の状態[62]だったのです。

このように、いつどこでも、尊師は弟子の成就の状態をご覧になっているのです。

◉――正確な道路情報　　ミラレパ大師

尊師は道路の混み具合を正確に把握していらっしゃいます。もちろん、ラジオの情報などは聞いていませんので、私達は驚くことがしばしばありました。

「こっちへ行った方がいいんじゃないか。」

そう尊師がおっしゃる方へ行くと、大体その道はすいていて、もう一方は混んでいるという状態なのです。

首都高速でこんなことがありました。

千葉方面から世田谷に向かうときのことです。二台で世田谷に向かっていたのですが、首都高速の江戸橋インターに来たときです。どちらが早いかということで、尊師の車は、尊師がおっしゃる通り神田方面に向かい、もう一台は銀座方面に向かったのです。すると、銀座方面は大混雑という状況で、尊師の方の車が世田谷に着いても、なかなか現われませんでした。

一回二回ならば偶然もあり得るのですが、毎回こういったことがあるので驚いています。

◉――当てられたヒヒイロカネ　アングリマーラ大師

六十一年の十二月、オウムの道場が世田谷にあった頃のことです。

ちょうど甘露水[63]を修法するために、尊師に言われて、みんな二階に上がりました。そのときは、ケイマ大師、ブラフマニー大師、ラクシュミー大師など、私を含めて十二、三人くらいの人がいました。

尊師から、「自分達の念で甘露水を作りなさい」と言われていたので、各々が自分のヒヒイロカネ[64]に五、六メートルくらいのヒモをつけて、バケツの中に水を入れ、エネルギーを入れ続けました。

数時間して、尊師が上がっていらして、甘露水に手を入れられました。

「おっ、まあまあじゃないか。だいぶエネルギーが入っているな。」

とほほ笑まれ、それから急に思い付いたように、

「よし、どの石がだれのものか当ててやろう。」

とおっしゃいました。

そして、おもむろに甘露水の中に手を入れて、ヒヒイロカネを一個取り出したのです。そのヒヒイロカネを引っ張れば、ヒモを握っているのがだれであるかわかるのですが、そのまま、ただヒヒイロカネを握った状態で、

「あっ、ラーフラのだな。」

とおっしゃいました。そして、ヒモを引っ張ると、まさしくラーフラ大師のヒヒイロカネだったのです。

「これは杉本のではないか。」

「この波動はミラレパだな。」

尊師はことごとく当ててしまわれたのです。

当時、私は尊師の神通力をたくさん目の当たりにしていましたので、当たらない方がおかしいと考えていたようです。しかし、今思い出してみると、やはりすごい神通力だなと、改めて思います。

◉――見抜かれた煩悩　杉本繁郎

六十一年十一月、オウムが渋谷から世田谷に移って間もなくのことでした。当時、精神

状態が極度に不安定だった私は、

「もうオウムなんかやめてしまおう。実家に帰って現世的な生活をしよう。」

と考え、夜、皆が寝静まったとき、オウムから逃げ出す作戦を練っていました。しかし、決行の時機を逸してしまったのです。

数日後、尊師が道場にいらっしゃったとき、私自身の精神状態の推移について細かく述べられ、

「○日から○日にかけて逃げ出そうと思っていただろう。すべて知っていたよ。」

とおっしゃったのです。

私はただ茫然としているだけでした。尊師は一〇〇キロメートルほども離れた所にいらっしゃったし、私は自分の考えていることはだれにも話していなかったのです。しかし、尊師は私の心の中をすべて知っていらっしゃったのです。

「グルと弟子の関係においては、時間、距離は一切関係なくなってしまう。グルはいつも見ている」といわれますが、このときほどこれを実感したことはありません。

◉――――至高のグル　西沢直人

六十二年十一月三日、持戒を守れず魔境(65)に入り、苦しんでいるときです。尊師から、

「大阪へ行け、プンナ大師のもとでやり直せ。」

と言われました。しかしなかなか決心がつかず、

「大阪に行く前に少しでもいいから独房に入れてください。」

と、自ら申し出たのです。

「よし、自己と闘うためなら入れ。」

ということで、独房修行(66)が始まりました。

与えられた修行のメニューは、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマ八時間、マントラ四時間、ツァンダリーの瞑想八時間(67)というものでした。

初日は、多少手を抜いたときもありましたが、なんとかメニューをクリアできました。しかし、二日目、三日目、四日目となると、朝起きられなくなり、ヴァヤヴィヤのときなど、ボーッとしている時間が多くなってきました。五日目には、世俗的な夢を見、こもる前からあった欲求が爆発しました。その直後でした。

「西沢さん、電話です。」

不安とちょっとした期待を胸に、受話器を手にしました。厳しい口調の尊師の声が聞こえます。

「西沢、私はお前に何時間ヴァヤヴィヤをやれと言ったか！」

私は小さい声で八時間ですと答えました。

「西沢は何時間やっているんだ。」

曖昧に四時間くらいだと告げます。

「西沢、瞑想は楽だったろう。」

「はい、瞑想はちゃんとやっていました。」

今度は少し胸を張って言えたのです。しかし、次の尊師の言葉は私の予想外のものでした。

「あんなのは瞑想じゃない。全然潜在意識に入ってなかったじゃないか。第一お前は、グルのことを一度も意識したことがなかったじゃないか！」

その通りでした。もう言い訳はできません。尊師はすべてを見ていらっしゃったのです。私のいる所から尊師のいらっしゃる所まで、電車でも優に三時間はかかります。距離など関係ありません。尊師はすべてをご存じなのです。

戒を守らないと会うのが怖いが、グルを信じ、帰依を実践する人にとっては、至高のグルなのです。

◉――すぐわかる故障箇所　鎌田紳一郎

アストラル音楽を作っていたときのことです。録音用のカセットレコーダーが壊れてしまったのです。

そのカセットレコーダーというのは、マルチトラック・カセットレコーダーという、ちょっと複雑な機械なのです。専門的知識がある青木さんに見てもらったんですが、

「だめだ。これはもう直んないよ。」

といった状態だったのです。

途方に暮れていたそのとき、尊師がいらっしゃいました。

「いや、プロだからこそ、見落としているところがあるのかもしれないよ。」

そうおっしゃって、尊師は機械をいじり始めました。すると、たちまちのうちに直ってしまったのです。

尊師が故障箇所をすぐ見つけられるという例は、他にもたくさんあるそうです。アスト

ラル・テレポーターの機械が故障したときも、「この部分の接続が悪いんじゃないか」とおっしゃると、その通りだったということです。

漏尽通をもってすれば、機械の不良箇所も見分けられるということでした。

◉――ピタリとわかる欠陥工事　名倉文彦

私が富士山総本部道場建設に従事していたときのことです。

ようやく、水道関係のめどがつき、明日が試運転というときでした。尊師からこういう電話がありました。

「前々からどうもポンプと給水関係で引っ掛かるものがあるんだ。今回は大丈夫か？」

「大丈夫です。今回は完璧です。」

私はそう答えました。

しかし、翌日のテストで考えられない事態が起きたのです。水がちょろちょろとしか出ないのです。

水道の給配水の方は、業者に発注していたんですが、よく調べてみると、ひどい箇所がたくさん見つかりました。配管のつなぎ忘れとか、二五ミリという考えられないほど細い

管を使っていたとかいうのが、それです。これでは、水が出ないわけです。

大体、尊師に「大丈夫か?」と言われるときは、必ずおかしなことがあるんです。業者の選定にしても、こちらがこの業者だったら大丈夫だろうと思って発注すると、「もっと考えろ」と尊師はおっしゃいます。それで、調べてみると、とんでもない業者だったということもありました。

「水中エアー・タイト・サマディ」[68]のときも、こういうことがありました。

「サマディ」の水槽の二つの欠陥は、水漏れと有毒ガスの発生でした。五月の第三回のサマディに備え、私達は準備をしていました。長時間の換気を行ない、有毒ガスについては完了、あとは水漏れのテストだけだ、というときです。

「水漏れはいいから、換気を続けろ。」

尊師からそういう電話が入ったのです。

有毒ガスについては大丈夫なのになんでだろうと思いながら、私達は換気を続けました。そして結局、水漏れのテストはできませんでした。

ところが、本番の「サマディ」になりますと、水漏れについては全く問題がなかったのですが、有毒ガスが発生してしまったのです。

こうした欠陥を指摘なさる尊師の神通力には、いつも驚かされます。

◉――専門家も舌を巻く井戸の工事　早川紀代秀

富士山総本部道場建設に当たって、そこには水道がありませんでした。そこで、私達は井戸を掘る必要に迫られていたのです。

当初、不動産屋さんから「富士には火山灰が積もっているから、一〇〇〇メートルくらい掘らなければダメだろう」と言われていたんです。一〇〇〇メートルも掘るのは不可能だなと思っていたとき、尊師から電話があり、

「大丈夫だよ。大体一〇〇メートルくらいで水が出るから。」

とおっしゃるのです。

言ってることがかなり違うなというので、今度は井戸の専門業者に調査してもらったんです。すると、「二〇〇メートルくらい掘ったら出ますよ」ということでした。実際のところは、掘ってみなければわからないということでしたが、私達は二〇〇メートルくらいならと思って、井戸を掘り始めたのです。

ところが、掘り始めてみると、なんと七〇メートルで水が出たんです。私達はうれしく

なってしまって、尊師に電話しました。すると尊師は、
「一四〇メートルまで掘れ。」
とおっしゃいます。
「七〇メートルで水が出るのに、なんで一四〇メートルも掘らなければならないんだろう。一〇〇メートルくらいで終わらせておけば、お金も安く済むのになあ。」
私達はそう思いながらも掘り続けました。
そして、一三六メートルまで掘り進んだときです。地層が急に変わったのです。業者の方は、次のように言われました。
「この地層の水は絶対にかれませんよ。素晴らしい井戸になりましたね。しかし、どうして一四〇メートルってわかったんですか。私達は長いことこの仕事をやっていますが、こんなところに新しい地層があるなんてことは、とてもわかりませんよ。」
水が出た時点で、一四〇メートル掘ることを渋っていた業者の方も、ただただ驚くばかりでした。尊師の神通力には、改めて驚かされました。

◉――驚異の純粋観照智　村井秀夫

エジプトでのことです。すごく暑いんで気温の当てっこしていたんです。昼間は相当暑いエジプトも、夜になると急に涼しくなります。そこで私は言います。

「だいぶ涼しくなりましたね。二八度くらいじゃないですか。」

すると尊師は、

「いや、まだ三七度はある。」

とおっしゃいます。そこで温度計で計ってみると、その通りなのです。

また、同じ日中でも風が吹いているのと吹いていないのとでは、気温の感じ方が変わります。私達でしたら、すぐそうしたものに影響されてしまうのですが、尊師はそうした状況でもピタリと気温を当てられるのです。

車のスピードについてもそうでした。今、この車が何キロで走っているか、なんてことをずばりと言い当ててしまうのです。

やはり、これもエジプトでのことですが、尊師のおっしゃる数値とスピードメーターの数値とが合わないのです。

「これはメーターがおかしいから、計ってみなさい。」

そう尊師はおっしゃるので、ストップウォッチと距離計で計ってみました。すると、二五パーセントもメーターが狂っていたのです。

こうした体験というのは、他にもあります。

安いハチミツを見つけてきたら、水アメが混ざっていると見抜いてしまわれたり、回転焼きやお好み焼きの材料をすべて言い当てたり、甘みのもとが砂糖かサッカリンかがわかるとか、もうこれは究極のグルメです。

また、三五〇と表示されていたジュースが、実際は三〇〇ミリリットルしかないのを当ててしまわれたりもしました。

時間についても正確です。「七時になったら起こしてくれ」と言われて、うっかり忘れてしまうときがあるのですが、「何時だ」と尊師に聞かれると、七時だったりとか、そういうこともありました。

アストラル・テレポーター作成のときは、こういうことがありました。

最初尊師は、コンピュータの「ビット」という言葉をご存じなかったのです。そこで、「ビットというのは、電圧をいかに細かく分割するかを表わしています。」

と申し上げたんです。すると、

「そうか。六四ビットまで行ったら、電子一個一個がわかるようになるな。」と尊師はおっしゃいます。そこで私が計算してみますと、確かに電子一個一個がわかるような数値が出てくるのです。

そもそも、アストラル世界という微細な世界を再現するのが、アストラル・テレポーターですから、粗雑な感じがあってはまずいのです。その六四ビットという数値は、正に私達が必要としていたものだったのです。

◉――よみがえる古代の遺産　　山田泰明

尊師の旅行中のエピソードです。

エジプトのハトホル神殿[69]でのことです。ハトホル神殿とは、デンデラというカイロからかなり離れた片田舎にあり、観光客もほとんど来ないというところなのです。でも、尊師の強いご希望で、そんなハトホル神殿に行くことになりました。

ハトホル神殿に着きますと、尊師はすたすたと歩かれ、ある所でぴたりと止まり、こうおっしゃいます。

「この絵は重要だから写しておいてくれ。」

そこで、私達はその絵を写したのですが、それはクンダリニー・ヨーガのプロセスを描いた絵だったのです。これほど貴重なものは、他のエジプトの遺跡では決して見られなかったでしょう。尊師は、その絵のことを知っていたわけではないのに、ピタリと止まる、これには驚きました。しかも、それは一見何の変哲もない、エジプトの絵文字なのです。

コプト教会を発見したときも、不思議な感じでした。

尊師が「あっちに何かある」とおっしゃるので、行ってみると、コプト教会があったのです。そして、そこで原始キリスト教のイニシエーション[70]について知ることができたのです。

ヒヒイロカネを探しに東北に行ったときも、不思議なことがあったそうです。

尊師は旅行の計画を全く立てないで向かわれるのですが、尊師のおっしゃる通りに進むと、それに詳しい人に出会ったりするのです。そして、今まで日本の研究家が求めても得られなかったヒヒイロカネを発見してしまわれたのです。

◉――尊師は透明な鏡　　小宮健二郎

尊師は、エゴのない透明な鏡で私達に相対していらっしゃいます。これこそ、最終解脱者の特徴と言えるのかもしれません。

尊師は透明な鏡で対応なさるため、私達のカルマがそのまま反映するのです。例えば、愛情深い人に対しては愛情深く、論理を重んじている人に対しては論理的に、冗談ばかり言っている人に対しては冗談交じりに話されるのです。これは、意図してやっているのではなく、自然とこうなられるとのことです。

あるとき、こういうことがありました。別の宗教団体から来られた方が、非常に横柄な態度で質問したことがあったのです。そのとき尊師は、その方の性格を神通力で言い当て、ジュニアーナ・ヨーガ[71]で解析なさって言い負かしてしまわれました。これも、その方のカルマによって自然と出てきた対処法だということでした。

このように、質疑応答のときは、猜疑心のある質問者の場合はその人なりに、素直な質問者の場合はその人なりに、お答えになる言葉が変わってくるのです。それも全く考えることなしに、瞬間的にそうした回答をなさるところに、私達は驚きを感じざるを得ないのです。

◉――頼もしいほどの見積計算

杉浦　茂

「テンポのいい文章を書くんじゃないか。」

詩を中心に文章を書いていた私は、まさにそうした文章を書いていたのです。尊師との初対面でこれを言い当てられたときには、本当に驚いてしまいました。

印刷会社の営業をしていた私は、現在オウムで印刷発注の仕事を担当しています。その最初の仕事でした。一七〇万円の見積りに、私は頭を抱えていました。まあ、相手の事情を考慮すると、一五〇万円までは値切れるなと思って、尊師に相談したのです。すると、尊師は、

「一四〇万で行こう。」

とおっしゃったのです。

私は、「そこまで下がるのかな」と思い、もう一度ぎりぎりに落とせるだけの単価で計算し直してみると、全くその通りなのです。これには驚きました。

私の計算ミスが原因ならば、それほど驚きはしなかったでしょう。しかし、印刷の値段の知識がないと、絶対に出るはずのない値段を、尊師は言い当てられたのです。そもそも、印刷の見積りというのは、少なくとも三年くらい働いていないとできないものです。ましてや、パッと値段を出すまでには、七、八年はかかるものなのです。もちろん、尊師にそういった経歴はありません。

また、ある本を再版するときのことです。

「初版が単価三三〇円か。再版はこの部数でいくらくらいになると思う？」

「そうですね、二六〇円くらいじゃないですか。」

と、私が答えると、尊師は、

「いや、そんなに高くはないよ。二〇五円でできるよ。」

とおっしゃいます。そして計算すると、ピタリと当たっているのです。

後で聞くと、尊師は私のコーザルのデータを読み取っていたということでしたが、この神通力には感服したものです。

念力（ねんりき）

◉――愛深き念力返し　　プンナ大師

六十一年三月頃のことです。

オウムのスタッフの何人かが体調を崩して、苦しんでいました。おなかをこわして下痢したりとか、みんなその変調はおなかに来ているのです。

すると尊師がお見えになって、

「これはマニプーラ(72)だな。」

とおっしゃいました。そして、祭壇の前で瞑想に入り、オウムの状況を分析して、こうおっしゃいました。

「A宗からの念力がかかっている。」

そこで尊師は、そうした念力をブロックするために、供養法（くようほう）を始められました。それは、「五輪の塔（ごりんのとう）」という供養法で、五大エレメントによって神々を供養する方法です。

一般に、念力返しの場合、その念力をかけた方に倍返しとなって返ってくるといわれています。特に、オウムという真理を実践する団体に向けての念力を返した場合は、倍返しどころではありません。『阿含経典』にも、真理に対する悪業はもっとも重いと記されているほどなのです。また、尊師の力の方が何倍も上回っていますから、それはもう大変なことになります。

しかし、尊師はそうはなさいませんでした。相手の方にその念が及ばないように、念を払ったのです。

それはこうした方法でした。

相手の方がお祭りをしている神々を、こちらが逆に供養してしまうのです。すると、向こうからの念で動き出そうとしている神々が、そこでストップしてしまうそうです。

「やられたらやり返す」という方法ではなく、罪を犯した邪悪な相手に対しても、愛をもって接する――そうした尊師の深い大乗の愛を拝見したとき、私はこれこそ真理であると感じたのです。

願わくば、罪深き魂こそが絶対幸福の世界に入れますように……。

◉――炎を動かす念力

大内京子

六十一年四月、山梨県の精進湖でのことです。その頃のオウムは、渋谷駅近くにあるマンションの小ぢんまりとした一室を借りていました。まだ弟子の数も少なく、麻原尊師ご自身の修行の際に、私もよく連れていっていただいたものです。

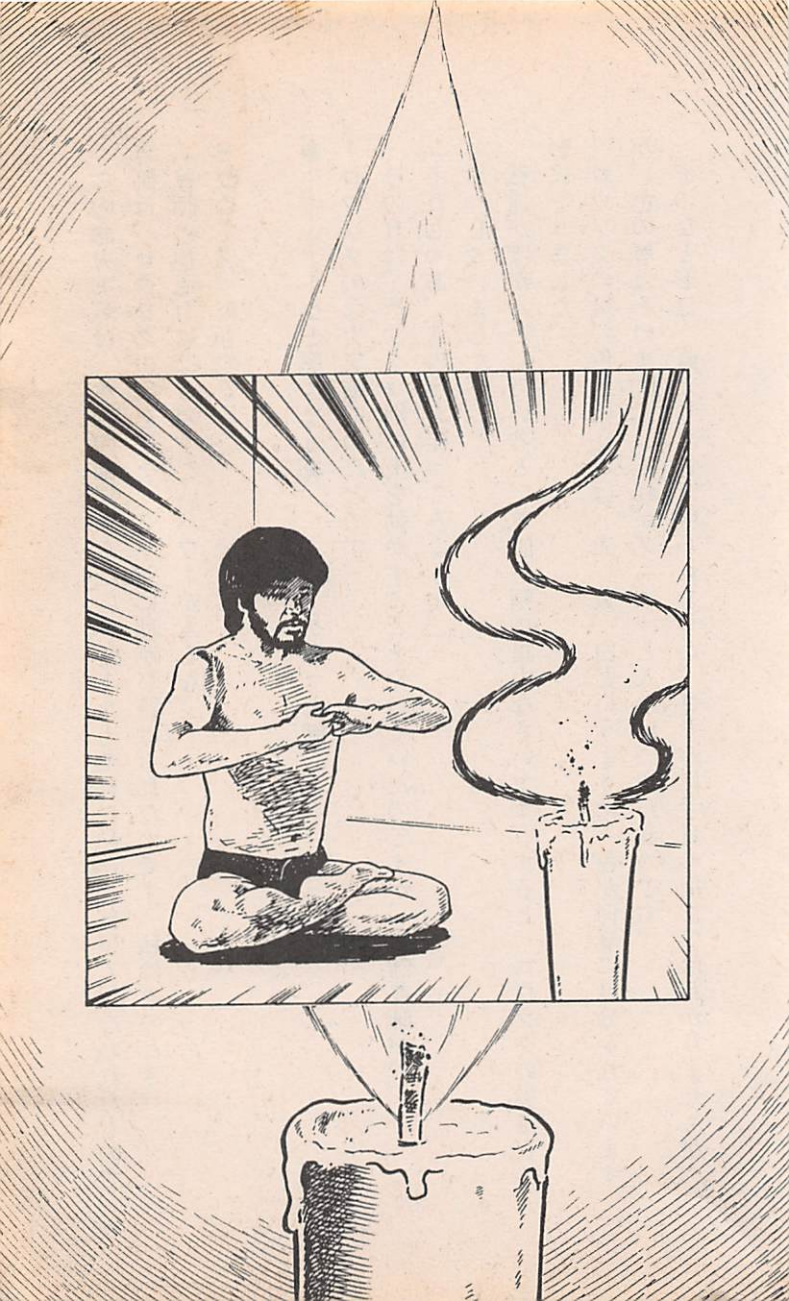
その日は四月だというのに、かなり肌寒い日でした。夕方、数人でネーティ[73]をやっているとき、突然、尊師がいらして、

「今から、ロウソクの念力実験をやってあげよう。」

とおっしゃいました。

突然のことなので、私達はワーッと歓声をあげ、驚いたり喜んだりしました。早速バケツの中に台を置き、ロウソクを立てて、その周りを数人が取り囲んで待っていました。私は、尊師の神通力をこんなに真近に見られるという思いで、胸がワクワクしていたのです。

最初、ロウソクの炎はのんびりとしていましたが、尊師がアージュニァー・チァクラから念力を送られると、急に炎は勇ましく速くなり、リズミカルに震え出したのです。続いてアナハタ・チァクラから念力を送られると、ものすごい勢いで炎は上へ上へと上昇しました。マニプーラ・チァクラでは、炎が上と下に伸び縮みしました。



この念力実験は、尊師の部屋から二〇メートルも離れた私達の部屋で行なわれたもので、尊師は、ロウソクの炎を各チャクラ別に動かし続けられたのです。私はそのとき、「尊師の神通力にはものすごいパワーがあるな。」と改めて思ったものでした。

◉――ひと形になる炎　　ケイマ大師

ロウソクの念力実験でのことです。

その日は、チャクラ別に炎を動かすことをやっていたのですが、突然尊師が、「それじゃあ、人の形を作ってみようか。」とおっしゃいました。

私達がぽかんとしていると、尊師は精神集中なさいます。すると、ロウソクの炎は人の形になりました。

ロウソクの炎の色というのは、赤、黄、白というように、色が何層にも分かれていますが、色の層はそのままで、それがグニョッと人の形に変わるのです。

そのひと形は、直立した姿で現われました。さすがに手足の指まではわかりませんが、

顔、体、腕、脚がはっきりとしているのです。炎というのは普通は揺れていますが、それがパッと止まって人の形になってしまうのです。

三センチくらいの炎がひと形になるのですが、これは結構リアルでした。

◉――念力お手軽に　ブラフマニー大師

オウムの渋谷時代のことです。シャヴァアーサナをとっていらした尊師がおっしゃいました。

「ヒヒイロカネを念力で動かしてみようか。」

ちょうどその部屋の天井からは、男の人のこぶし大もあるヒヒイロカネが下がっていたのです。ヒヒイロカネをご存じの方はおわかりでしょうけど、ヒヒイロカネは見かけよりもずっと重いのです。だから、そのヒヒイロカネは、ちょっと強い風が吹いたくらいでは、絶対に揺れることはないのです。もちろん、そのときは窓を閉めていたので、絶対に動くはずはありません。

尊師はシャヴァアーサナのまま、精神を集中し始めました。すると、ヒヒイロカネは少しずつ動き出し、だんだん揺れが大きくなり、振子のように左右に揺れるのです。

そこで私は、ちょっといたずら心を起こして言いました。
「尊師、今度は前後に動かしてみませんか。」
「うん、やってみるか。」
尊師はそうおっしゃると、再び精神集中し始めました。すると、ヒヒイロカネの横揺れが弱まり、静止状態になるとくるっと回って、今度は前後の方向に動き出したのです。私は、自らの思い通りに物を動かす尊師の念力を再確認して、驚いてしまいました。
尊師の念力は、他にもいろいろなものがあります。ジュースの味を甘くまろやかに変えたり、壊れて動かないジェーバーを直してしまったりしたこともありました。

テレパシー

◉――未来の尊師　アングリマーラ大師

私が独房修行をしていたときのことです。それは、ケイマ大師が解脱されてまもなくのことで、尊師もオウムのこれからを思念なさっていたのではないかと思います。

瞑想中に、尊師のヴィジョンが出てきました。

尊師は、世界各国のオウムの支部に行って、説法をしていらっしゃいました。それは、いつどこで説法をするという決まったものではなく、数人の弟子と隠密に行動しているのです。そして、動きが鈍っているとか、危険であるとか、問題が起きているといった支部に行かれて、説法なさるのでした。

そして、その後何年か経つと、尊師は一つの所に定住してあまり動かれないんです。それは、ロータス・ヴィレッジ[74]のようなところだと思いますが、尊師はそこから各支部の大師方に指令を出していらっしゃるのです。その頃支部にいらっしゃる大師方は、皆大乗の

志をもって信徒の方と接するため、身も心もボロボロになっています。それを尊師が、一つの所からカバーしていらっしゃるのです。

成就後、私は尊師に尋ねました。

「尊師、これは予言ですか、それとも予知夢ですかね。」

すると、尊師はこうおっしゃいました。

「それは、私のテレパシーだ。その状態こそ、私の意思するところなんだよ。」

◉――――**テレパシー実験のおちゃめ**　　**ブラフマニー大師**

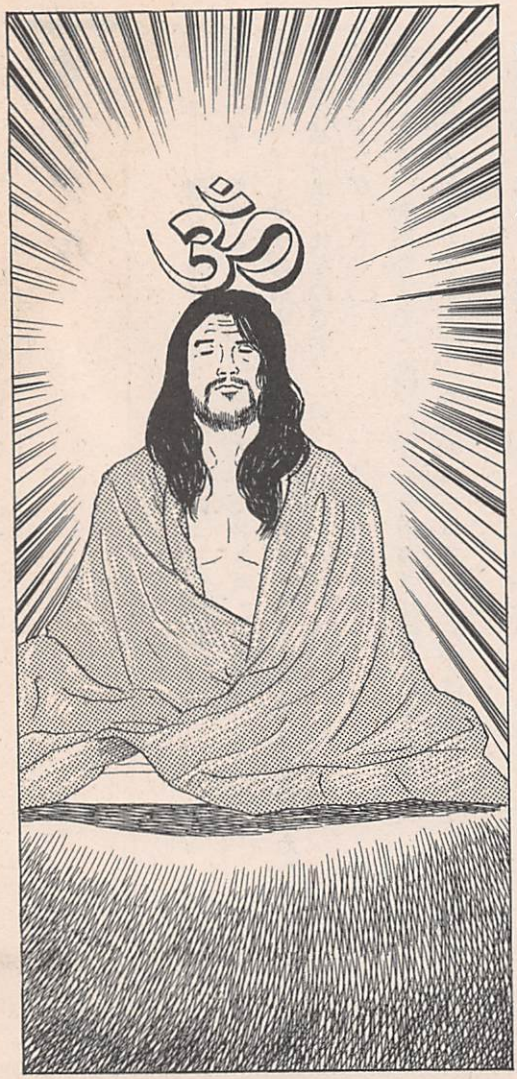
数字当てのテレパシー実験のことです。それは、尊師の後ろから一つの数字を送り、それを尊師が当てるというものでした。

みんな真面目なので、ルール通りやっているのですが、私は「えい、惑わしてやれ」と思って、

「一・二、一・二……。」

と二つの数字を思っていたのです。すると、尊師は、こうおっしゃいます。

「おかしい。一と二の二つの数字が出てくる。」



「そうで～す。確かに私は両方思ってました。」
「こら！　そういう悪さをするんじゃない。」
いろいろな実験で、様々ないたずらをしましたけど、すべて尊師はお見通しでしたね。

オラクル

◉——聖者の降霊　　ラクシュミー大師

六十一年、尊師とともに修行をしていたときのことです。

シャヴァアーサナの最中、尊師が急にマニプーラ・チャクラを押さえたかと思うと、妙なことを話し出されたのです。

「私はドゥンガーです。」

とおっしゃり、突然今までと違った修行を指導され始めたのです。

初めは何が何だかわからず、尊師がふざけているのではと思ったほど、奇怪な出来事でした。

後で尊師にお聞きしたところ、これは、自分の体に自分の守護神を降ろし宿らせるという、オラクルという現象だということでした。そして、このドゥンガーと名乗る方は、シャンバラ[75]の住人で、尊師の修行のアドバイスをされている方だということでした。

ドゥンガーさんは、私達の修行、五体投地を見るなり、

「腰が入っていない。背筋をもっと伸ばして。スピードが遅すぎる。」

と、厳しく指導してくださり、私達は、シャンバラの修行の激しさ、厳しさを実感したのです。

また、尊師のお体を使って、今知っているチャクラ以外の数あるチャクラの位置や、聞いたことのないマントラなど、秘儀をいろいろと教えてくださいました。そして、シャンバラの歌を大きな声で歌われたかと思うと次の瞬間、いつもの尊師に戻っておられました。そして、そのときのドゥンガーさんの言葉が今でも耳に残っています。彼は次のようにおっしゃったのです。

「この麻原に付いていけば、どんなことがあっても必ず解脱できるよ。彼はすべての魂のことしか考えていないから、絶対に離れず、付いていかなくてはいけないよ。」

また、ある日シヴァ神[76]が降りていらして、目で追えないくらいの速さで手印（ムドラー）を変えて見せてくださったこともありました。

このように、様々な異次元の真実を実感させていただけたことを深く感謝し、多々ある神通力を見せて私を導いてくださったグルの偉大さに、つくづく感謝している次第です。

コーザル・ヨーガ

◉——人の心も思いのまま　　アングリマーラ大師

六十二年の和田平のセミナーでのことです。

近くにある三峰山の神社へ、『マハーヤーナ』の写真撮影のために行ったときのことです。キャンプ場の質疑応答の時間が迫っていたため、尊師を含め、七人で慌ただしく出発したのです。

その撮影場所というのは、ロープウエイで頂上まで十分かかる上、さらに二十分も歩かなければならない所なのです。写真撮影をしていると、帰りのロープウエイに遅れそうな時間になってしまいました。

そこで、尊師は二宮君におっしゃいました。

「ロープウエイの発着場まで行って、発車時間を少し遅らせるように頼んできてくれ。」

そして、二宮君は走っていったのですが、一人では不安なので岐部さんと私も後を追い

ました。しかし、ロープウエイはとっくに出た後だったのです。

五分ほどしていらっしゃった尊師に、私達が事情を説明しますと、尊師は、

「上にまだ一つロープウエイがあるんだから、なんとか臨時で出してもらえるように、交渉してみたらどうだろう。」

とおっしゃいます。そこで交渉に行ったのですが、責任者の方はけんもほろろで相手にしてくれません。もっとも、一般の観光客がいきなり臨時の便を出せというのですから、取り合ってもらえなくて当然です。

尊師にお伝えすると、

「いや、そういうことはないだろう。ちゃんと話せばわかるはずだ。」

とおっしゃって、直接交渉しに行かれたのです。

尊師は、自分の講演を待っている人達がいること、そして、約束を果たさないとたくさんの人に迷惑が掛かるので、なんとかしてもらえないかということをお話しになったのです。すると、その責任者の方は、

「仕方ないですね。今回だけですよ。」

と言って許可してくれました。あまりにトントン拍子に事が運ぶので、私達はびっくりし

てしまいました。他にも乗り遅れた観光客の方が何人かいたのですが、みんな半信半疑ながら、喜んでいました。

もう一つは六十一年、『生死を超える』をオウム出版から初めて出したときのことです。

その頃、私は営業を担当していたのですが、全国の書店に出回るようにするためには、どうしても大手の取次会社を通す必要に迫られていました。しかし、ぽっと出たばかりの弱小出版社など、全く相手にしてもらえませんでした。あらゆる手を尽くしても、うまくいきません。そのことを尊師にお伝えすると、

「よし、わかった。もう私が出るしかないな。」

ということで、尊師が交渉に向かわれたのです。

まず一社に行きますと、すんなりと交渉が進み、その三日後には担当の方がオウムに見えられて、簡単に話がまとまってしまいました。また、非常に手ごわかった別の会社でも、やはり話が弾み、その翌日には話がまとまってしまったのです。

あれだけ難航していた交渉事が、こんなにもあっさりとまとまるとは、私には驚きしかありませんでした。

富士山総本部道場の建設のときもそうでした。

役所との間にトラブルがあり、道場建設を続行することができなくなってしまいました。そんなとき、尊師が直接役所に行かれて、パッと解決されてしまったのです。

後でこうした出来事についてお聞きすると、これらの神通力は、相手のコーザル世界のデータを入れ替えるというコーザル・ヨーガ[77]の能力だということです。人間は各々コーザル世界のデータによって行動が左右されています。つまり、そのデータを自由にできるこの神通力は、相手を意のままに動かせる力であると言えるのです。

こうしたコーザル・ヨーガによって、タバコがすぐにやめられたという方もおられることを付け加えておきましょう。

サマディ

◉――水中エアー・タイト・サマディ

六十三年の三月と五月、尊師は「解脱者の証明」という目的で、「サマディ」を一般公開されました。それが、この「水中エアー・タイト・サマディ」です。

サマディというのは、『ヨーガ・スートラ』の八段階の最後の「超覚醒（ちょうかくせい）」に当たるもので、ジュニアーナ・ヨーガ成就後初めて到達できる、高度なステージです。このサマディの状態に至ると、心臓、呼吸、代謝という生理機能が停止し、肉体は仮死状態になります。まさに、究極の瞑想状態と言えるのです。

そして、そのサマディには、サヴィカルパ・サマディとニルヴィカルパ・サマディという二つの状態があります。

サヴィカルパ・サマディとは、自らがこの世に生きているという意識が存在したまま、アストラル世界、コーザル世界に飛ぶという状態です。このとき、肉体は仮死状態となり、

動きません。

ニルヴィカルパ・サマディとは、意識は涅槃[78]にあり、コーザル世界、アストラル世界、現象界のすべてを経験するものです。そしてこのときは、呼吸停止のまま、肉体を動かしたり話をしたりすることができるのです。つまり、自らの思い通りに、肉体を操り、変形させることも可能になるのです。

こうしたサマディの状態を科学的に証明するためには、長時間の呼吸停止のデータが必要となります。そこで四方を水に囲まれ密閉された、水槽の中に入る必要が生じました。これが「水中エアー・タイト・サマディ」なのです。

三月の「サマディ」は、水漏れと有毒ガスのアクシデントに見舞われました。そうしたアクシデントの中でも、尊師は一・五時間にわたる呼吸停止を三回記録なさいました。

五月の「サマディ」も、有毒ガス発生のアクシデントに見舞われた上、水槽の不可思議な変化により、呼吸停止のデータは得られませんでした。しかし、一般の人なら一時間と入っていられない有毒ガスの中に、尊師は二十時間という長い間に渡って入られ、トゥモ[79]の熱で有毒ガスを燃やしてしまうという、驚異の神通力を証明してくださいました。

こうして「サマディ」は、解脱の状態を科学的に証明して、終了したのです。

◉――変幻自在の瞑想状態　　ラクシュミー大師

尊師と一緒に瞑想をしているときのことです。

マントラを唱えながら、尊師と向き合っているのですが、尊師のお顔がどんどん変化するのです。若くなったり、年とったりするかと思えば、全く別の人の顔になってしまわれたりします。初めは目の錯覚かなと思ったのですけど、あまりにも近くで見ていますし、何度も確認していますので、決して目の錯覚ではあり得ないのです。

他にも、体が小さくなったり、大きくなったりなさることがありました。これは識無辺処定[80]という、肉体が膨張、収縮するステージであるということです。

体重を自在にコントロールするという力もありました。体重計に乗って、尊師が瞑想すると、スーッと針が動くのです。大体一キロくらい体重が減ったのです。ダイエットが気になる女性にとっては、うらやましい神通力ですね。

◉――豊聡耳の尊師　　山田泰明

スタッフの会議でのことです。会議が予想以上に長引き、尊師は次の仕事に向かわれなければならなくなりました。私達がどうしようかと悩んでいると、尊師はこうおっしゃい

ました。

「構わないから、それぞれの問題を全員で一度に話してみなさい。」

私達は顔を見合わせ、ためらっていました。しかし、尊師がせかされるので、同時に話すことにしました。

そこには、十人あまりの人がいたのですが、さすがに同時に話すとガヤガヤしてうるさくて、だれが何を言っているのかまるでわかりません。しかし、尊師は「よし、わかった」とうなずかれて、一人一人に適切なアドバイスを送られたのです。

私達は皆驚いてしまって、

「尊師、聖徳太子[81]みたいですね。」

と言うと、

「あんなのと一緒にしないでほしいな。」

と、尊師は笑っておっしゃいました。

◉――**無呼吸の証明**　　**二宮耕一**

六十一年末のことです。

呼吸をしていないという実験をしたのです。それは、顔の上に紙を貼って動くかどうかを見るというものでした。

尊師の紙は全く動かないのです。少しでも呼吸をしていたのならば、紙は動くはずですが、尊師の紙はぴくりとも動かないのです。

尊師はニルヴィカルパ・サマディを得ていらっしゃることを、私達に明らかにしてくださったのです。

◉――眠りながらすべてを把握　アングリマーラ大師

私が東京本部で営業の仕事をしていたときのことです。仕事が終わってから、尊師にその日の仕事の結果報告をするのが日課となっていました。

その日もいつものように尊師のお部屋に伺うと、尊師は布団の中に入っていらっしゃいました。お顔が黒ずんで、ひどくお疲れのようでした。シャクティーパットをした後だったのです。

「悪いが、このままで構わないか。」

と、尊師はおっしゃいました。

「はい、尊師がどんな格好をしていらっしゃっても、私は一向に構いません。」
私はそう申し上げ、報告書を読み始めました。
最初のうち、尊師は「うん、うん」とうなずいていらっしゃったのですが、いつの間にかそれが、すごいいびきに変わりました。そして私は「ひどくお疲れのようだ」と思い、報告書を読むのをやめたのです。
すると尊師は目をお開けになって、
「どうした、続けて構わないぞ。」とおっしゃるのです。
「お疲れのご様子ですから、後にしましょうか。」
「いや構わん、続けてくれ。」
このようにおっしゃるので、私は再び報告書を読み始めました。しかし、しばらくするとまたいびきが聞こえてくるのです。私が言葉を止めると、尊師が、
「どうした、ちゃんと聞いているから続けてくれ。」
とおっしゃいます。
腑に落ちない感じで、私は報告を続けました。そしてやっと報告が終わると、尊師もお目覚めになって、

「わかった。」

とおっしゃって、驚くべきことに、私がお伝えしたことについて詳細にご検討され、明日の仕事の指示をなさるのでした。つまり尊師は、熟睡していらしたときに申し上げたことまで、はっきりと覚えていらっしゃったのです。

後でお伺いすると、意識ははっきりと持ちながら、シャクティーパットで憔悴しきった体だけを完全に休養させていらしたということでした。

今までに見たことも聞いたこともないような神通力だったので、私の驚きはただならぬものでした。

護摩法

ごまほう

◉——神々の降霊　　ケイマ大師

護摩法[82]のときのお話です。丹沢のセミナーではよくやっていて、参加された皆様のために、快晴にしたりすることなどを、尊師はよくなさったものです。

その護摩法で、尊師がマントラを唱え、火に対して修法なさると、火がお釈迦さまの形をとることがありました。またあるときは、神々が降りていらして、その姿を火の中に現わされるのです。

そしてそのときは、炎が固定されて、立っていたり、座法を組まれているお姿がはっきりとわかるのです。

「今、降りていらっしゃったよ。」

神々が降霊されると、尊師はこうおっしゃっていました。

●――天候を変える！

早川紀代秀

六十三年七月のことです。富士山総本部道場の建設で、どうしても雨が降っては困るときが出てきたのです。

普通の工事ならば、雨の降る日を計算に入れて工期を設定するのですが、オウムのハードスケジュールにそんな余裕はありません。困ってしまって、尊師に相談いたしました。

「修行者が何を言っているか。天候くらいコントロールできなくって、どうするんだ。」

そう尊師はおっしゃって、

「いつ降らなければいいんだ。」

と聞かれます。そこで私は、

「この三日間だけは絶対に困ります。」

とお伝えしました。

そして、尊師は護摩法をなさいました。護摩法を始められた二十七日当初は、小雨がぱらついていたのですが、肝心の三日間は信じられないほど晴れ上がりました。

後で天気図を調べてみますと、五仏の供養が終わった二十八日正午頃、日本海上に一〇一六ミリバールの高気圧が発生しています。この高気圧が勢力を広げ、停滞前線を東方海上に追いやったため、晴れたことがわかりました。

そして、その三日間が過ぎたとき、また雨が降り出したのですが、これにはまた驚いてしまいました。

イニシエーション

◉――最高の神通力、シャクティーパット　プンナ大師

尊師の最高の神通力といえば、私は人を解脱させることであると思います。その中でも、尊師のシャクティーパットほど素晴らしい神通力はないと言えましょう。

ヒマラヤの優れた聖者でも、一生涯のうちに五人と行なわないのが、このシャクティーパットです。それを尊師は、延べ数千人の方にこなされます。多いときは、ひと月数百人余りの方にシャクティーパットをなさることもあります。そうした大乗のお心を示されている方は、他にはあまりいないのではないでしょうか。

それでは、私のシャクティーパット体験談をお話しいたしましょう。

それは、六十年の末のことでした。シャクティーパットを始めて、一、二分後のことです。目を閉じているにもかかわらず、白い光がきらめき始めたのです。その後、綺麗な虹が帯状となり、輪になってアージュニァー・チァクラの付近で回転し始めると、私はもの

すごい至福感に包まれました。そして、シャクティーパットの五日後、私はアストラル・トリップ[83]を体験したのです。

このように、シャクティーパットは、クンダリニー覚醒、様々な神秘体験といった霊的覚醒に多大なる効果があります。また、自らのカルマの浄化といった、心のプロセスの向上も忘れてはなりません。

六十三年の六月、尊師はセーラさんというアメリカ人にシャクティーパットを施されました。[84]そして、セーラさんも私達日本人と全く同じ超常体験をされたのです。セーラさんは、修行体験の全くないアメリカの方ですが、ここには大きな意味が含まれています。

まず、修行体験のない彼女が超常体験をされたことで、シャクティーパットだけで霊性が高められることがわかります。次に、彼女が言葉も習慣も異なる相手だということで、シャクティーパットが暗示でも催眠術でもないことがわかります。

シャクティーパットは、言葉を超えた救済の大いなる力です。自らのエネルギーを移入しては、相手の汚れたカルマを引き受けるシャクティーパット――、ここにこそ、大乗の本当の意味があるように思えます。

◉――体調をも治すシャクティーパット　中村　昇

シャクティーパットは、弱った肉体を回復させる効果もあるのです。

「水中エアー・タイト・サマディ」前に、尊師とインドに行ったときのことです。ダライ・ラマ法王[85]の謁見前に、下痢をしてしまい、全く体が動かなくなってしまいました。チベット・メディカルセンターで薬をもらったのですが、全く効かず、体が動かなくてどうしようもない状態になってしまったのです。

そこで尊師はシャクティーパットをしてくださったのですが、そのお蔭で体のけだるさはなくなりました。下痢もほとんど止まり、動ける状態になったのです。

そのとき「サマディ」前だったため、尊師はあまりエネルギー移入はできなかったのです。それでも、ルン・トラブル[86]は抑えられ、マニプーラ・チャクラは活性化し、体調は回復しました。尊師のお心遣いに心から感謝する次第です。

◉――下位アストラルからの脱出　シャンティー大師

尊師が神通力をお見せになるときは、常にその背景に救済があるということは言うまでもありません。ここに一人の証人として、偉大なる仏陀(ぶっだ)[87]、麻原尊師の神通力について書き

記したいと思います。

六十二年十二月、狂気の集中修行の後半から、私にトゥモが始まり、熱が急上昇して四三度にもなりました。

以前にも、これと同じ体験を七回ほどしております。初めてのときは、尊師がそばに立たれ、ブラフマ・ランドラ[88]から尊師のエネルギーが入ってきて治していただきました。しかしその後は、自己のカルマが消えるまで、尊師のエネルギーのロスにならないよう、何も申し上げずに耐えることにしておりました。

このセミナー中、信徒の方々の指導をしていた私は、かなり多くのカルマを受けたために、声は出ず、目、鼻、耳、口からも膿や血が出て、肉体的に苦痛を感じていました。それと同時に意識が下位アストラル世界[89]の影響を受け、心の中で闘っているような状態でした。これがカルマを受けたためであるとわかっていてもどうすることもできず、非常にさみしく暗い世界に没入した感覚が、何とも不快で不自由で、このままでは危険だと思い始めていた頃でした。

いつもバランスを崩したときはグルがおそばにいらしたり、グルからお電話があったりするのですが、この日も外にいらしたグルにばったりお会いしました。

「どうした、シャンティー。」

そうおっしゃって、尊師は頭をポンとたたいてくださいました。するとその瞬間に、あの異常な下位アストラルが消え去り、不安のないさわやかな状態に戻ってしまったのです。

そして尊師は、

「心の中で下位アストラルと闘ってはいけない。お前の修行によって一緒に高い世界へ連れていきなさい。蓮の花は泥の中でも白く咲くんだよ。仏陀はどんな所にいても汚れないんだ。」

と教えてくださいました。

本当に尊師の大乗のお心が身にしみた出来事でした。

狂気の集中修行の最終日にも、尊師は全員の体に触れて行法のご指導をされました。これは、尊師のエネルギー移入であり、シャクティープラヨーガ[90]であり、すべての魂への愛であることは言うまでもありません。

シャクティーパットは、もっとすさまじいでしょう。尊師は、他の苦しみを自己の苦しみとされ、自己の苦しみを喜びとされている。この日私は、尊師に代わって、必ずや多くの人々にシャクティーパットを施していこうと誓ったのでした。

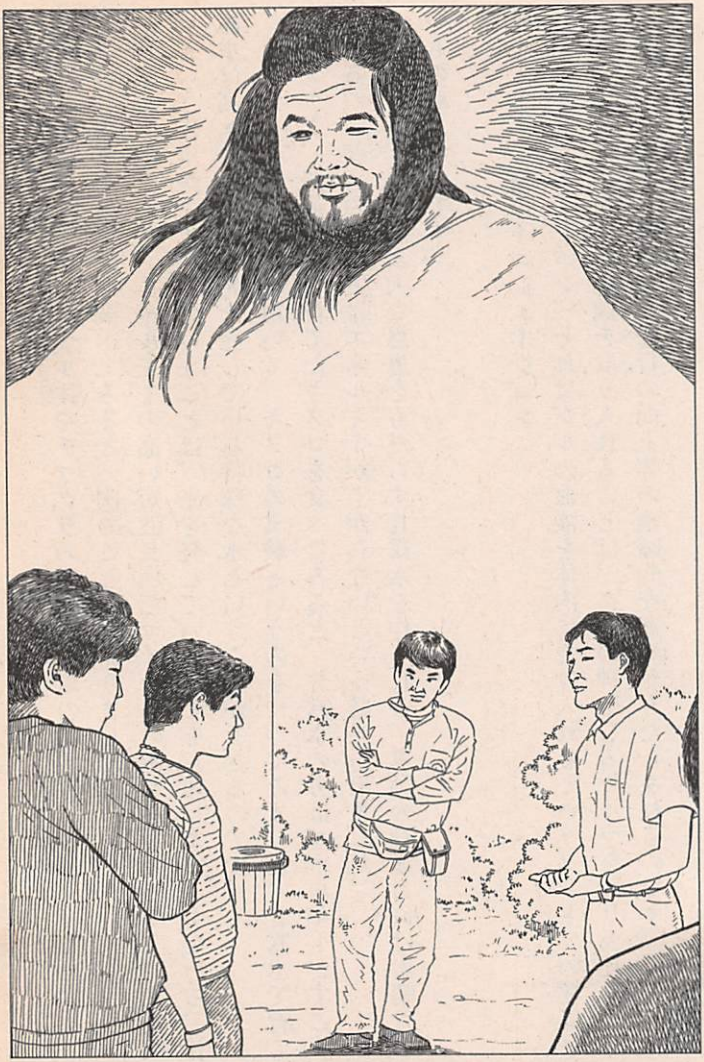
◉――神秘の聖水、甘露水

尊師が、水に向かってマントラを唱え修法すると、その水は甘露水になります。尊師は、東京にいながら大阪で甘露水を作ることも可能でいらっしゃいます。

この甘露水には、高次元のエネルギーが満ちあふれており、私達に多くの神秘的な効果をもたらします。その一部を挙げてみましょう。

- 目を閉じると、オレンジ色の球体が見えた。（今西希望さん）
- 腰から背中にかけて、ポワーッと温かく気持ちの良い感覚が広がった。（相馬伸二さん）
- 空間が波立ち、その波間に様々な色の光が輝いて見えた。（中野文博さん）
- まろやかな甘みが口に広がり、体が火のように熱くなった。（中山浩子さん）
- 胸にピリピリと気が走り、緑がかった美しい青が見えた。（安岡はやおさん）
- 以前、毎日苦しんだ胃の痛みがなくなり、心身ともにスッキリした。（山口美砂子さん）
- 気持ちが明るくなり、とても精神的に安定した。（渡辺和子さん）

この甘露水には、水元素（すいげんそ）優位の人間界[91]のカルマを浄化する働きがあるのです。そして、



そのパワーは各々のアストラル体[92]やチァクラの浄化に及ぶのです。

この甘露水を科学的に調べてみると、次のことがわかりました。[93]

甘露水の吸光度が、エネルギーの高い短波長域でマイナスの値を示したのです。光を吸うという作用がマイナスということは、光を発していることを意味します。すなわち、甘露水は高エネルギーの光を発している特殊な水ということができるのです。

そして、その甘露水を用いて、キノコの実験というのをやってみました。甘露水で育てたキノコと、普通の水で育てたキノコを食べてみると、甘露水の方はエネルギーがすごく上がるが、普通の水の方はエネルギーが上がらないという結果が出ました。

こうした、私達に多大な恩恵をもたらす甘露水を作られる、尊師の神通力には素晴らしいものがあるのです。

◉——血のイニシエーション

血のイニシエーション、それはグルの血液を体内に受け入れるというタントラの秘儀(ひぎ)に属します。グルの体内組織を取り入れることは、グルの神聖なるカルマを取り入れることに当たり、カルマの浄化や修行の向上等の飛躍的な進歩がもたらされるのです。

タントラのイニシエーション[94]は、四段階に分けられます。五仏になるための参入の儀式に当たる第一イニシエーションの次に、この「血のイニシエーション」に当たる第二イニシエーションが来るのです。実際のところは、赤ワインやお茶などで代用されることが多く、本物が用いられるのは、グルと弟子とがともに高レベルのときだけに限られます。つまり、グルの体内組織の移入は、それだけ高度で大きな効果のあるイニシエーションだと言えるのです。

それでは、「血のイニシエーション」によって、霊的向上を果たされた方の体験談をご紹介しましょう。

・「血のイニシエーション」を受けて数日後、バルドーの体験[95]をしました。私は変化身となり、蓮華座[96]を組んだまま、真っ暗なドームを落ちていくのです。普通バルドー体験をするときは恐怖を感じるのですが、「血のイニシエーション」によって尊師のバルドー体験が私のコーザル世界のデータにインプットされたため、私は恐怖心がなかったのです。また、精神的にはどんどん落ち着きを増しています。（栗原成浩さん）

・「血のイニシエーション」を受けてから三十分くらいして、左のアナハタ・チャクラ

が痛み出し、自分がいかにエゴイストであったかを思い知らされました。そして、クンダリニーが頭頂部に達し、猛烈な熱と頭頂部への圧迫感を覚えました。この後、ツァンダリー[97]の体験をするなど、驚くほど霊性は向上したのです。（丹羽孝雄さん）

・「血のイニシエーション」を受けた直後は何も感じなかった私が、その三日後には空中浮揚の前段階であるダルドリー・シッディを体験しました。そのダルドリー・シッディもだんだんと高さが上がってきています。また、精神状態は安定し、ナーダ音[98]を聞くといった体験もしました。（吉田恵子さん）

・「血のイニシエーション」後、二日が過ぎたときのことです。目を開けていても、話をしていても、休むことなく甘露が流れ落ちるようになりました。瞑想のときも雑念がなくなり、集中できるようになりました。（宮田静江さん）

また、「血のイニシエーション」では、グルの透明な心を被験者にコピーするため、心のプロセスにも大きな変化が見られます。次に挙げるのは、精神的向上が見られた方の体験談です。

・グルの存在を常に感じるようになりました。その後、限りない無常感が迫ってきて、実体のない現象界に執着していた自分が、はっきりと見えてまいりました。魂と肉体が別個のものであることが、しっかりと実感できたのです。（池田三保子さん）

・クンダリニーの上昇とともに、尊師の「愛」が広がりました。私心がなく澄みきった「愛」、相手をはぐくみ成長を願う「愛」、真の仏陀の「愛」に接して、私は幸福感に浸ることができました。（鳥谷部祐規子さん）

・肉体の浄化が起きた後、心が晴々としてまいりました。そして、尊師の偉大なる愛を感じ、自らのプライドやエゴのみすぼらしさに思い至りました。（浜本英照さん）

・「大乗の発願[99]」を唱えていると、私の心が感応するようになりました。エゴがだんだんと少なくなり、救済を願う意志の力が強くなってきました。（前嵜正廣さん）

それでは、「血のイニシエーション」を科学的に分析してみたら、どうなるでしょうか。京大の医学部で、尊師の血を研究してみたところ、血液中のＤＮＡに秘密があることがわかったのです。そこでは、尊師のＤＮＡを体内に取り入れると、クンダリニーが上昇し、潜在意識が現われるということが明らかになりました。

それでは、そのDNAはどういう効果をもたらすのでしょうか。純粋培養した尊師のDNAを、オウムの高弟四人が試したところ、次の結果が得られたのです。

・クンダリニーが即上がりました。そして、エネルギーが上昇し、表層意識がなくなり、三昧(さんまい)[10]に入りやすい状態になりました。尊師のエネルギーは非常に微細なのですが、自分の細胞の一つ一つが目覚めたような感じになりました。(プンナ大師)

・クンダリニーが上昇する感覚が三日間くらい続きました。心は深い瞑想時の静けさに満たされ充実して、何の欲求もない状態になりました。何度かアストラル世界に飛んだこともありました。(ウッパラバンナ大師)

・体が熱くなり、頭頂が涼しくなりました。尊師のDNAが体に入ったという実感があり、暗性[10]の状態から抜け出すことができたのです。(岐部哲也)

・まず体が熱くなり、クンダリニーが上昇しました。しばらくすると、精神的に明るくなりました。一時間後には、瞑想時のようになり、潜在意識の状態になったのです。(村井秀夫)

以上四人の体験からも、クンダリニーの上昇や潜在意識へのアプローチといった効果を、うかがい知ることができます。尊師のDNAが霊的ステージを上げるのを可能にすることは、ここで明らかにされたと言えるでしょう。

このように、グルの血を移入するという「血のイニシエーション」は、計り知れない霊的向上をもたらします。これこそ、高度なタントラの秘儀と言えるのです。

◉――御宝髪、その偉大なるエネルギー

尊師の髪の毛を煎じて飲むのが、この御宝髪のイニシエーションです。「血のイニシエーション」同様、これも高度なタントラの秘儀に属します。

その体験談をご紹介しましょう。

・いただいた後、すぐ潜在意識に入り、瞑想が深まりました。そして、尊師のヴィジョンが見え、幸福感に満ちた状態になりました。（藤田純さん）

・甘みがあり、まったりとした御宝髪をいただくと、体が熱くなり、気が上昇してボーッとなりました。心臓の鼓動も速まり、尊師のミラクルパワーを感じずにはいられま

せんでした。（王和省さん）

・御宝髪をいただいてから瞑想すると、瞑想が深まり、美しい色が観想できました。いつもは暗性の私ですが、夢見がすごく良くなりました。（生野伸明さん）

・体が熱くなり、汗が出ました。翌日、潜在意識にあった性欲が出てきて困ったものですが、そのエネルギーの強さに驚いています。（今井宏清さん）

・心が浄化され、自らが純化していくのがわかります。特に、グルを観想すると、感激に震え、涙があふれてきます。（西浦誓子さん）

・寝る前にいただくと、クンダリニーが上昇し、白銀と黄金のヴィジョンの中に飛んでいきました。その後、体中に快感が走り、そのエネルギーのすごさを実感いたしました。（山田美砂子さん）

・金色や銀色の光が強まり、自らが浄化されるのを感じました。その強力なエネルギーは、病気治療にも役立つのではないかと思ったほどです。（奥田輝彦さん）

・御宝髪をいただいてからというもの、言葉に曖昧さがなくなり、活気にあふれた行動が取れるようになりました。私の生き生きとした姿は子どもにも伝わり、元気な表情が見られるようになってきました。（吉川公美さん）

・まず、気が上がりました。そして、いただいた後に修行をすると、疲れを覚えず、いつもきついと感じていた修行プログラムも楽にこなせました。（乗上淳さん）
・三つの効果が現われました。それは、疲れにくくなったこと、睡眠時間が減ったこと、集中力が高まったことの三つです。特に、その効果が長く続くことには驚かされました。（鈴木雅巳さん）

このように、尊師は髪の毛一本までをも提供し、私達の修行が進むようご配慮してくださるのです。

御宝髪には、最終解脱者の純粋な汚れなき善性のカルマが含まれております。私達がそれを体内に取り入れることは、私達の心身を尊師に近付けることになるのです。そのために、様々な神秘体験が生まれると言えるのです。

アストラル・ライン

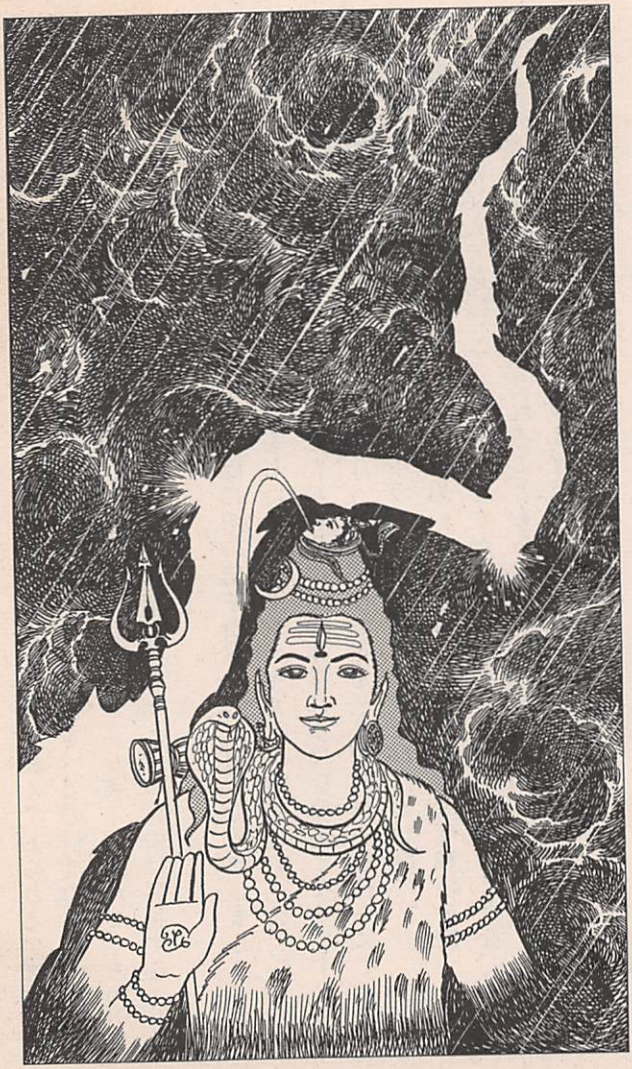
◉——解脱に導くエネルギー・ライン　　マイトレーヤ大師

麻原尊師の持つ最も偉大な神通力とは何でしょうか。それは多くの人々を真理、すなわち解脱に導く力だと私は思います。

尊師以外にも、インドのヨーギのように空中浮揚をする人や、ユリ・ゲラーのように、念力やテレパシーで有名な人はいます。しかし、そのような神通力は、私達を楽しませてくれるかもしれませんが、私達に真の幸福をもたらしてくれるわけではありません。解脱という、絶対の自由と幸福を得ることを助けてくれる力こそ、至上の神通力と言えるのではないでしょうか。

そこで、尊師がどのようにして、その神通力により、皆様の修行を助けていらっしゃるかについて、お話ししましょう。

たいして修行の進んでいない私ですから、とてもそのすべてを知っているわけではあり



ませんが、とても感銘を受けたものが、尊師がご自身と信徒を結んでおられるアストラル世界のエネルギー・ラインです。このアストラル・ラインはすべての信徒の方につながっており、信徒の方が尊師を意識すれば、尊師の強く透明なエネルギーが流れてくるのです。そして、このエネルギーこそが、私達が様々な困難を乗り越え、ついには解脱することを助けてくれるのです。

まず、このエネルギーによって、実際にその弟子が解脱した例をご紹介しましょう。

これは、ラージャ・ヨーガの成就をしたコーンダンニャ大師の場合[註]です。ラージャ・ヨーガの成就は、強い意志をベースにした精神集中力が非常に重要な要素となります。彼の場合、その精神集中は、他の成就者のような独房における長時間の瞑想修行中にではなく、彼のオウムの仕事である、大型バスやトラックの運転中に行なわれました。

経験のある方はよくおわかりになると思いますが、バスの運転は大変神経を使うものです。そこで通常二人で運転しているそうですが、パートナーが調子が悪いときなどは、大師が一人で連続十時間以上運転されることもあったそうです。

疲労を覚えるときはいつも、大師は尊師を強く意識しました。すると、頭頂からサーッとエネルギーが流れこむのが感じられ、それが大師の疲れをいやしたのです。

そして、大師は様々なアストラル世界のヴィジョンを見るようになり、ついにはラージャ・ヨーガの成就の証(あかし)である三グナを霊視し、三昧に入ることができるようになったのです。

このように、大師の成就をもたらした長時間の精神集中は、尊師のアストラル世界を通して流れてくるエネルギーによって支えられていたのです。

六十三年八月現在、オウムには十二名の成就者がいますが、彼らは皆、様々な形で尊師のエネルギーを受け、解脱に近付いていきました。コーンダンニャ大師ほど劇的ではありませんが、私もバクティー[90]の最中、尊師を意識することで流れてくるエネルギーによって、ツァンダリーといわれる高度な瞑想体験をしたり、心にわき上がってくる煩悩が静められるのを感じました。

尊師のエネルギーの素晴らしさは、スタッフのみならず一般の信徒の方々も、様々な形で実感されています。それは、六十二年十二月から翌年の一月にわたって行なわれた、十日間の集中修行において、多くの信徒の方々が体験されました。

このセミナーには約二百名の方が参加され、非常にハードな修行プログラムを与えられました。

例えば、三時間連続のビバリータ・カラニー[10]という修行を取り挙げてみましょう。

これは、多くの信徒の方が普段五分から多くて十五分しかできない行法です。持病の腰痛を持っていらっしゃる方も、少なくありませんでした。しかし、私達スタッフの指導で、修行の始まる朝から尊師を意識し続けると、多くの方がなんとか三時間をこなすことができ、その翌日からは楽に三時間をこなせるようになったのです。

加えて、五体投地やマントラ瞑想のとき、尊師を意識すると気持ちが良くなって幸福感に包まれ、尊師のエネルギーとヴァイブレーションを感じられた方が多くいらっしゃいました。

一方、信徒の方が修行されている間、尊師はご自身も修行しようとなさいましたが、体が動かなくなり、部屋にこもっておられました。それは、皆さんが尊師を意識したため、尊師から多量のエネルギーが流れ出したからです。

このようにして、ほとんどの方が一日十数時間の修行を十日間やり抜かれたわけですが、若干名脱落者が出ました。脱落した方は、尊師とのパイプを持っていない一般の方と、尊師を意識しなかった二人の信徒の方でした。

尊師に呼ばれたその二人の信徒の方は、

「尊師がいなくても解脱できると思っています。」

と言い、それを受けて、尊師は彼らのエネルギー・ラインを切られました。すると、以前は数分間できたクンバカ[105]が、二十秒しかできなくなってしまったのです。

この一連のセミナーでの出来事は、いかに尊師のエネルギーが私達の修行を助けてくださるかを明らかにしています。

このように、修行を助け、神秘体験を促し、ついには解脱に導くエネルギーを無数の人に与えることができる尊師の能力こそ、真に他を利する、偉大な神通力と言えるのではないでしょうか。これこそ、仏陀の偉大なる神通力に違いないのです。

◉――**神通力で書かれた本**　　**杉浦　茂**

私がこの本のリライトをしていたときのことです。

そのときは、富士山総本部道場の完成記念式典に当たり、私は一人でリライトの作業に従事していました。尊師を常に意識しながら仕事をしていたのですが、そのリライトのスピードたるやすさまじいものでした。あまりに速すぎて、書き写すのに苦労するほどです。

ところが、深夜三時になると、ピタリと筆が進まなくなりました。全く文章が浮かんで

こないのです。富士山の方に電話をしてみると、それは尊師がイニシエーションを始められた時間に当たっていました。

つまり、尊師のアストラル・ラインからのエネルギーによって、私の仕事は支えられていたのです。そして、尊師が信徒の皆様方にエネルギーを降り注いだ瞬間、私に来るエネルギーが減り、書けなくなったということなのです。

そうです。この本、『神通力　麻原彰晃は魅せた！』という本は、尊師の神通力によって書き上げられた本と言っても過言ではないのです。

大宇宙占星学

だいうちゅうせんせいがく

◉――驚異の適中率、究極の占星学とは……

麻原尊師が、六十三年三月より月間書籍『マハーヤーナ』に連載されている、この「大宇宙占星学」こそ、究極の占星学と呼ぶにふさわしいものです。

『マハーヤーナ』に連載しているものは、発売月のデータ、予想が載りますので、そこでのコメントはすべてが事件以前のもの、すなわち予知になっているのです。

それでは、「大宇宙占星学」の適中例を挙げてみることにいたしましょう。

『マハーヤーナ』NO8の土星の欄には、こういった記述があります。

「土星が弱い期間（三月十五日から四月九日）……（中略）……地震の危険性もあります。」

さらに、その要注意日として三月十八日が挙げられていました。

そして、三月十八日早朝のことです。関東地方に地震が起きたのです。その震源は東京都東部、深さ九〇キロ、マグニチュード六・一といったもので、千葉では震度四、東京では

震度三が記録されたのです。

また、『マハーヤーナ』NO9の天王星の欄には、こう書かれています。

「ただし後半は、新しい発見からくる事故や航空機事故の恐れがあります。」

そして、その要注意日としては四月二十九日が挙げられていますが、その日にはハワイでアロハ航空機の天井が吹き飛ぶという事故が起きたのです。

このように、「大宇宙占星学」では、事件の起きる正確な日付までを当てることが可能なのです。また、他に適中した主な事件について挙げてみることにいたしましょう。

・四月十八日　アメリカ・イランのペルシャ湾の軍事衝突
・六月一日　米ソ首脳会談の行き詰まり
・六月十二日　アルゼンチンの航空機事故
・六月二十六日　フランスの新型エアバス墜落事故
・七月三日　アメリカ海軍のイラン航空エアバス撃墜
・七月七日　北海油田爆発
・七月八日　インド南部の列車事故

・七月二十一日　中国地方での集中豪雨
・七月二十三日　海上自衛隊潜水艦「なだしお」と大型釣り舟の衝突事故
・七月二十六日～　伊豆半島東方沖の群発地震

ざっと挙げただけでも、これだけの事件が適中しています。細かい事件を入れたら、数限りなく適中しているのです。

それでは、どうしてこんなに当たるのでしょうか。まず、「大宇宙占星学」の特徴[106]を挙げてみましょう。

①「立向（りっこう）」と「座山（ざざん）」という二種類の吉凶の見方がある
②実際の惑星の動きと位置を、コンピュータで三次元的に高速解析している
③アストラル世界の特別な変数や資料を使っている
④大宇宙の巨大なエネルギーを考慮している
⑤大宇宙占星学を使いこなすには、「天の時」「地の利」「人徳」「インスピレーション」が必要不可欠である

そもそも「大宇宙占星学」は、尊師が、アストラル世界のグルの一人であるマニクラチューより、秘儀を伝授されて始まったものです。それは、特徴③にもある通り、アストラル世界のデータが重要なポイントを占めるものなのです。つまり、尊師の神通力が、この驚異の適中率をもたらしたと言えましょう。事実、「大宇宙占星学」の予知においては、尊師の神通力は不可欠なものなのです。

さあ、あなたも『マハーヤーナ』で、この「大宇宙占星学」の驚異に触れてみませんか。

第三章　神通力、そして私達の修行の目標

神通力は、修行の過程において必ず得られるものです。
それは、単にプロセスであって、ゴールでは決してありません。
それでは、私達にとってゴールとは何でしょうか。
これについて明らかにしているのが、昭和六十二年十二月十二日(土)
「ポア・セミナー」(オウム真理教・東京本部)においての、
麻原彰晃尊師の説法です。
あなたもできるだけ早く、真理の道を歩み、
自らの自由・幸福・歓喜を手に入れてください。

◉――成就の証明　三明六通

今日の説法は、何をもって解脱とするか、あるいは何をもって悟りとするかという話が一つ。もう一つは現世的な話、つまり、どのようにしたら幸福になれるかという話、この二つをしようかと考えています。

まず、釈迦牟尼の時代、二つのプロセスの完成をもって成就という言葉を当てはめました。それは何かというと、一つは三明といわれる神通力。そしてもう一つは、六通といわれる神通力。この三明をもって成就の証明とする場合もあるし、あるいは六通をもって成就の証明とする場合もあるというふうに、一般的にいわれているわけだね。そして、この三明を得ることが、すなわちラージャ・ヨーガの成就、六通を得ることが、すなわちクンダリニー・ヨーガの成就とお考えになったらよろしい。

例えばアングリマーラ大師にしろ、ウッパラバンナ大師にしろ、あるいはラクシュミー大師にしろ、この三明を完全に得てらっしゃるわけだね。そして、シャンティー大師、あるいはケイマ大師は六通を得てらっしゃると。もちろん、アングリマーラ大師、ウッパラバンナ大師、あるいはラクシュミー大師は六通を得るプロセスに入っていて、なかには六通のいくつかを得た大師もいらっしゃるわけだ。

ところで、この三明六通といわれているものは一体何かというと、あなた方のよく知っている、

・天眼通――透視能力
・天耳通――遠隔透耳能力
・宿命通――自分や相手の前世や来世を見る力
・他心通――相手の心を読み取る力
・漏尽通――相手の煩悩を見極める力
・神足通――空中浮揚

というね、六つの神通力が六通といわれるものであり、これが備わって、初めてクンダリニー・ヨーガが成就したんだよ、というふうに釈迦牟尼は規定していらっしゃった。

◉――**オウムの大師と数々の神通力**

そしてその通り、シャンティー大師にしろケイマ大師にしろ、この六通をお持ちです。ただ、それが完璧であるかどうかというのは、エネルギーの状態によるので、また別問題です。どういうことかというと、空中浮揚について言えば、一〇〇メートルも一〇〇〇メ

ートルも飛び上がるとかいうような完璧なものではありませんが、今から訓練していくことによって、そうなるでしょう。しかし、一応神通力の根っこみたいなものは得ています、ということです。

また、アングリマーラ大師とか、ラクシュミー大師といったラージャ・ヨーガを成就し、次のクンダリニー・ヨーガのプロセスに入っている人達は、天眼通、漏尽通、宿命通といった三明を得ているわけだね。

あなた方が成就したしないの判定も、この三つの神通力、あるいは六つの神通力を完全に得たか否かによるわけで、それらを得た段階で、「あなたは成就した」ということになります。これが釈迦牟尼のお説きになった、あるグループは三明を得た、また、あるグループは六通を得たという意味です。

そして今、世界のあちこちを見渡して、こういうグループがあるかといったら、あなた方が今入信していらっしゃるオウムしかないわけだ。

例えば、アングリマーラ大師の他心通というのはすごいものでね。『ヨーガ・スートラ』には、相手の顔色をうかがって相手の心の状態を知るとあるわけだけども、アングリマーラ大師の場合はそうじゃない。仏教的な他心通だね。いきなり前にどんと座ると、そうす

ると、例えば「あなたは浮気をしてますね」なんていきなり来るわけ、どんと。（笑）そりゃ当たったらたまったもんじゃないよ、グサッと来るからね。でも、それが当たるから困ったもんだね。（笑）これは、相手がどういうものを持っているかという他心通、それからね、今生でのカルマを読み取る力と言ったらいいのかな、まあ宿命通の一つなんだけども、それをお持ちだというわけなんだね。だから、あんまりアングリマーラ大師の前に行くと危ないからね、これは。（笑）

同じように、ラクシュミー大師も三明の力は特に優れていると。そして今度、ケイマ大師とかシャンティー大師に関しては、もちろんそれもお持ちだけども、それよりもまた違った力、まあ天耳とか神足とか、ね、そういうものが優れていらっしゃるというようにお考えください。

そして、今年（六十二年）は大体、二、三人成就すればいいなと思っていたら、どういうわけか八人も成就してしまった。このペースでいくと来年（六十三年）、私は四十人成就させなければならない計算になるんだよ。ところがスタッフは今六十数名しかいません。もし、四十名成就させてしまったら、二十数名のスタッフと五十名くらいの大師ということになってしまうからね。バランスが取れなくてすごく困るわけです。まあ、それは、今

飛んでる人達（空中浮揚を身につけつつある人達）とか、いろいろいらっしゃるから、その方々がスタッフになって応援してくだされば、四十名成就させるのも可能であると考えています、私としては。

あなた方は、こうして世界でただ一つの真理に巡り合えたのだと考えていい。もちろん、インドには優れた聖者の方がいらっしゃって、いろんな法を展開していらっしゃる。それも真理です。しかし、私達の今の条件、環境においては、あなた方は真理に巡り合うただ一つのチャンスをものにしているわけです。ですから、必ずこの真理の流れに入り、最終的には解脱し、悟りを開いてほしいと私は考えています。

◉――真の成就者の証明　「水中エアー・タイト・サマディ」

問題なのは、こうやって成就者達が相次いで出て、神通力もそれぞれお持ちになっていますが、世の中には変な人がいて、修行もしていない、成就もしていないのに、「私は成就した」と言って、金もうけのためにコマーシャルを打って、ヨーガタントラのプログラムだとか、いろいろやってる方もいるということです。

では、そういう方々に対して私達はどのように対処できるかといったら、ただ一つしか

ない。それは、証明だね。つまり、成就した場合にはこれができますよ、という証明が必要になるんだよ。

そこでね、来年の三月十五日、富士山のふもと、総本部道場の地で「水中エアー・タイト・サマディ」をやろうかと考えています。もちろん失敗したら死だ。しかし、今からは「ヨーガ」とか「解脱」とか、あるいは「悟り」という言葉が世の中に氾濫(はんらん)すると思います。そして、オウム自体は、それを止めるつもりはないんだよ。でも、成就の状況はこうであるとハッキリ打ち出しておかないと、私達は人類に対して大変な悪影響を与えることになるわけだ。だから、今回の「水中エアー・タイト・サマディ」は、日本にとって、いや世界にとって、素晴らしい金字塔を打ち立てることになるだろう。だから、あなた方は誇りとしなさいよ。こういう真理の教えに巡り合えたというカルマをね、誇りとしなさい。

そして、これが成功[107]したら、あなた方と約束した通り、水中サマディ[108]、あるいは空中浮揚、あるいはテレポーテーションといった、私の持っているいろんな神通力なるものをお見せすることになるだろう。まあ、恐らく来年の終わりくらいには、そこまでやらなくても、オウムは真理だと皆さんが連呼なさるようになるだろう、ね。

悟り　突然訪れる解放感

では次に、悟りについて。悟りというものはね、どういうものかというと、ずーっとあるプロセスで追及する。ラージャ・ヨーガだったら、否定、否定、否定、否定、否定、すべて否定してしまって、追及して、ある瞬間ブツッと切れる。

例えば、ラクシュミー大師の場合はマハー・ムドラー的な一種の悟りをしたわけだ。彼女は修行中、グルが全く会いに行かないで、いじめられました。そして、彼女から電話がかかってくるわけだ、たまに。「先生、私はもう自宅に帰りたいんです」と。「修行したくないんです」と。それで、「ああ、そうか、修行したくないのか。で、どうするんだ？」「いや、私はもう、もともと修行には興味はなかったんです」と、必死に今の苦しみから抜け出したいと、電話で訴えてくる。「ああ、わかった、わかった」そこで、私はうまくだますわけだね、相手を。（笑）それを二回、三回とやっているうちに、ある日突然ブツッと切れる。今まで苦しみだったものが、パッと喜びに変わり、喜びだったものが苦しみに変わる。それを、ラクシュミー大師は経験しているんだね。これは、マハー・ムドラー的な悟りだね。まあ、その悟りにも、もう一歩、もう二歩、深さがあるわけだけども、それは今後、おそらく達成なさるでしょう。

あるいは、ケイマ大師もそうで、これは、もうケイマ大師はジュニアーナ・ヨーガ、大乗のヨーガ[109]に入らせなければならないと思って、徹底的にいじめているわけだよ。そうすると荒れ狂うわけだね。今度は荒れ狂う虎という感じだね。（笑）この荒れ狂う虎を、いろいろなだめすかしながら教育していくわけだけども。ところが、それも時期が来て、ある日突然パッと変わっちゃうわけだね。これは二人の大師方に後で質問したらよろしい。突然変わるからね。これが悟りです。

まあ、悟りというものは、学問とか経験を積み上げていったものではなくて、ある日突然バチッとくる。だから、今ここにいらっしゃる大師方は、それぞれがそれぞれの悟りをお持ちなわけだ。これが、曖昧な表現だけども、一応、悟りのプロセスです。

◉――天界への道　真理への帰依

そして、もう一つ。では、どういうふうにしたら幸福になれるか。これはね、特に「ポア・コース」[110]と関係があるわけだけども。もしだよ、この大師方が三明六通をお持ちだとしたならば、オウムの今のスピードというものは、釈迦牟尼が登場した時代以上のスピードで進んでいることになります。このオウムの流れというものは、釈迦牟尼の教団の根源

的なものとオーバーラップして考えてよろしい。

そうするとだよ、この場合、幸福になることは簡単です。それは、釈迦牟尼が説いた『阿含経』の中でもね、施戒天という、布施をしなさい、それから持戒を守りなさい、それによって、あなた方は必ずや第四天界、兜率天、あるいは、第二天界、忉利天に行けますよという教えがあるわけだね。それを実践すればいいわけだ。

じゃあ、布施とは何かというと、口を酸っぱくして言っている財施、安心施、それからもう一つは法施だね。この三つだ。じゃあ、天界に至るための持戒は、わずか五つしかないでしょ。まず、生き物達を慈しみ、殺してはいけない。それから、盗みをしてはいけない、施しなさい。そして、愛のないセックスをしてはいけない。そして、嘘をついてはいけない。そして、酒を飲むな。

この布施、持戒の二つの背景には何があるかというと、私と、私を背後から動かしていらっしゃるシヴァ神と、それから大師方があるわけだね。これは何かというと、仏陀とそれから僧と、そして、私が説いている法だね、仏法僧に帰依しなさいよ、これに帰依し、布施の実践をし、持戒を守ったならば、あなた方は間違いなく天界へ行くことができるでしょうということです。そうすると、あなた方が天界に行くとしたならば、その途中の段

階では神々と同等の幸福感に浸ることができるようになるだろう。

◉――オウムと釈迦牟尼の教団　徳の優れた人々の集まり

オウムとね、釈迦牟尼の教団とは、もっとダブッているところがあるんだよ。例えば、「ミラクル・ポンド」といって、釈迦牟尼が入浴なさってた、この体を洗ったりなさった、その池があるわけだけども、その水を飲むと、すごく精神が安定して、幸福な気分になってくるという逸話がある。

これは、オウムの甘露水と似ているでしょう。現代に、例えば私がお風呂に入って、「さあ、あなた方飲みなさい」と言ったら、「汚いから嫌だよ」と、みんな思うでしょう。(笑)ところが甘露水だったら「飲んでもいいよ」とか考えるよね。だから現代では甘露水なんだよ。

まあ、これは裏話だけども、オウムのスタッフの特別イニシエーションってすごいんだよ。私が歩き回るとね、髪の毛を狙っているわけだ、みんな。そして、髭を狙っているわけだ。そして、それを得たときの、みんなのうれしそうな顔ね。ニコーッというよりも、ニターッとした顔してね。そして、もう一所懸命、煎じて飲んでる。で、気が上がった、

何だかんだと言ってるね。

しかし、このスタッフのレベルの話をすると、例えば、今デザイン班のリーダーをやっている岐部君は、四二度五分の熱が出てもワークを続ける人なんだ。四二度五分というのは、現代の科学では〝死〟なんです、これは。このくらいになると、蛋白質が凝固してくるから、これは死です。ところが、平気でワークしている。これがオウムのスタッフのレベルなんだ。

つまり、オウムの人達は、俗に言うところの神通力だけではなくて、強靱な精神力と、強靱な体力と、強靱な気力を持っていると。だから、あなた方を支えている人達というのは、みんなそれだけ徳の優れた、精神力の優れた方々なんだ。そして、あなた方が、それと巡り合って、今こうやって実践していらっしゃるということは、あなた方も同じように徳の優れた方々なんだね。だから、その徳を生かし、そして、発展させ、ある人は天界へ行きなさい。ある人は成就して救済する側に回りなさい。もちろんね、天界に行く人が、財施、安心施、法施といった布施をすることによって、当然救済のお手伝いをするわけだから、それは同じように救済の側に立ったということができるよね。それと同時に、持戒を守ることによって天界に至る道があなた方にはあるわけだ。そんなに難しい話じゃない

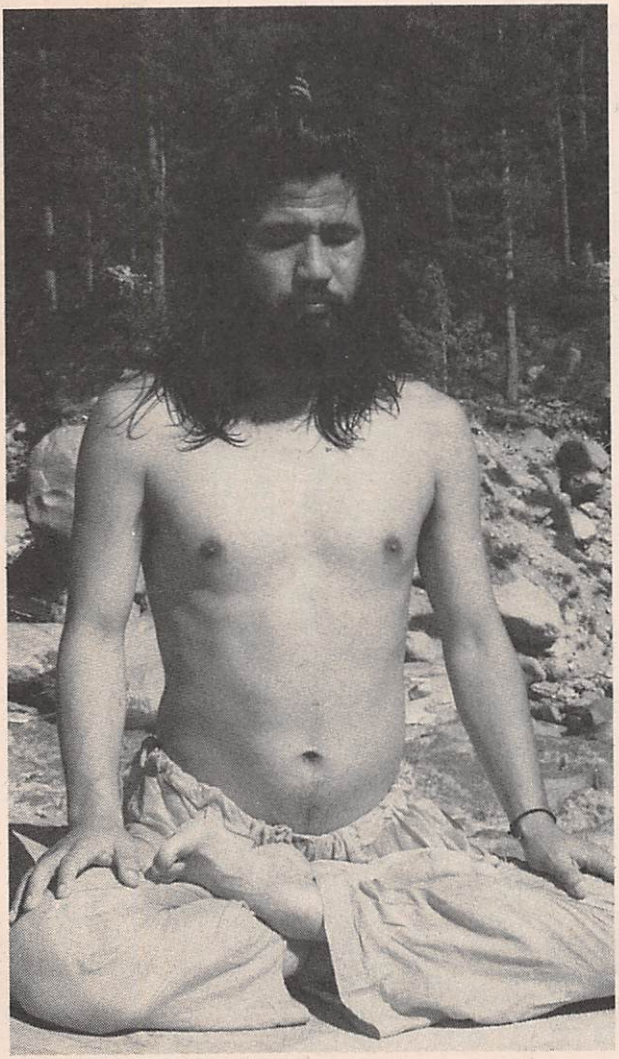
よね。

◉――**数々の修行アップシステム　シヴァ神からの贈り物**

そして、大師方が登場する度に、オウムの、あなた方を引き上げるための賞品みたいなものができ上がってくるわけだね。これは、シヴァ神から私達へのプレゼントです。それによって、どんどんエネルギーはアップするわけだね。

例えば、初めはヒヒイロカネ一つだった。そして、甘露水ができた。プルシャ[11]ができた。次は、匂いを使ったプルシャ型の香りのイニシエーション（「プルシャ型たまて箱」[12]として発売中）ができている。そして、もう一つは特殊な甘露水（超純粋甘露水）[13]ができている。もうすでに五つあるわけだよね。シヴァ神が意思しているのは、あと五つくらいあるから、来年には多分十個くらいになるでしょう。[14]そのうち、あなた方は、「私は、どれによって修行を進めようか」と考えるようになるでしょう。

さあ、そうなった段階で、大師方が別に苦労しなくても、シャクティーパットと同じ効果がある様々なエネルギー移入によって、皆さんのクンダリニーを上げることができる。しかも、あなた方がお布施をなさり、それから持戒を守られることによって、心が浄化され



て、解脱、悟りのプロセスに入っていける。だから徐々に徐々に、オウムのシステムが変わってきているという感じがします、私は。そして、これは素晴らしいことだと思うね。

◉――――**大乗の道　マハーヤーナへ**

大乗というものは必ず皆さんに何かを還元しなければならない。私がシャクティーパットという形で、あなた方に還元したように。

そうして、大乗の成就者、あるいは大乗の修行者というのが誕生していくわけだね。これについては『マハーヤーナ・スートラ』をよくお読みになったらわかるね。あなた方の到達するマハーヤーナ・ステージというものがどれくらいの道程か。そして、その素晴らしさが。

そして最後は、あなた方は何を得るのか。それは不死を得るだけではない。自由自在というものを得るね。自由とは何かというと、アストラル世界で生きることもできるし、あるいはマハーヤーナ[16]で生きることもできる。あるいは、この現象界で救済者として生きることもできる。こういう自在性のことです。それからもう一つ、歓喜ね。いつも幸福な気分でいられる。そして、不滅だね。この三つを、あなた方は得ることができるわけだ。こ

れはマハーヤーナ・ステージの特徴だね。だから、一生二生では普通、ここに到達するのは不可能といわれている。千生、あるいは、かかる人は二千生かかるといわれています。

◉――――**タントラヤーナ　成就への近道**

しかし、オウムでは特殊な、タントラヤーナに近いことをやっている。この「タントラヤーナ」というのは、マハーヤーナ・ステージの千生分を一生に集約して成就させようというものだ。

そのためには何をやるかというと、秘儀伝授、それからグルのエネルギー移入。この連続です。オウムを見てごらん。プルシャがそうでしょ。甘露水がそうでしょ。シャクティーパットがそうでしょ。特別イニシエーションがそうでしょ。それから超純粋甘露水がそうでしょ。それと香りのイニシエーションもそうでしょ。すべて秘儀でしょう。来年、四つくらい、また新しいイニシエーションが登場するでしょう。そして、私のシャクティーパット、特別イニシエーションは終わるわけだけども、その終わった後も私がシャクティーパットをやった人に関しては、最後まで責任を持とうと考えているね。特別なエネルギー移入の方法によって。そして、千回以上生まれ変わって成就するマハーヤーナ・ステー

ジを、一気にタントラの修行で成就させてしまおうというわけだ。

ということはだよ、言い方を換えたら、そりゃ大変だね。わかりますね、大変だというのは。つまり一生を六十年、まあ、神々の世界も、あなた方にはあるだろうから、一生を二百年と計算して、二十万年分の修行を一気に終わらせるわけだから。それは大変だ。だからあなた方も心して修行にかからなければいけない。加えて、私達はほとんど無限大分の一の確率で真理に巡り合えたのだから。そして、この機会を逃したならば、私達は今後、真理に巡り合えないのだから。何はさておいても修行をしようと、何はさておいても真理の修行をしようと考えてください。

あるいは、もう一つの考え方があるね。私の今の周りの状況では解脱できないと。今、私が出家すると周りが困るんだと。だから、解脱できないんだと。そういう人の場合は、先程言った通り、次の生でも真理に巡り合えるように、真理に対する供養と、それから持戒を守る、これを実践しなさい。それによって来世は兜率天（第四天界）に生まれ変わるだろうからね。ここで、布施だけをやっている人は、忉利天（第二天界）にしか生まれ変わらないと考えなさい。布施をなし、しかも持戒をなして、はじめて兜率天に生まれ変わるチャンスが出てくる。もちろん、そのうえに忍辱（にんにく）の修行、精進（しょうじん）の修行をやったならば、

当然のことだね、これは。

そして、この四つの土台をね、ガッチリ固めたならば、その後のタントラヤーナ・ステージね、まあ、タントラ乗とか、秘儀乗、密儀乗、真言乗といわれているステージに入って、一気にジャンプできるんだよ。そして、来世を待たずに今生で、このマンダラのグヤサマジャ[16]と同じように、大乗の仏陀となることができるわけだ。いいですか。

◉――**修行の到達点　解脱か、天界か**

今日は、成就についてまず話したよね。成就というのは三明を根本とすると。あるいは六通を根本とすると。

それから、もう一つ、悟りについて話したよね。悟りというのは、ただ積み上げることによって到達するものではなく、積み上げるものだけども、ある段階でブツッとすべてが変わってしまう。これが悟りであると。

そして、幸福になるための道を話したよね。それはオウム真理教自体が真理だとしたならば、あなた方は単に布施の実践と、持戒の実践をやるだけで、幸福になり天界へ行けるんだよとね。

幸福になるという例を一つ挙げましょう。ある信徒の方で、彼女に引っ掛かっている方がいたんだよ。その方は、素敵な彼女を得るために修行をしていたんだね。そしてその時点で、彼女になりそうな人がいたと。そこで、「布施をし、バクティーを一所懸命やったら、それはなんとかなるよ」という話をした。すると、結局彼女にふられてしまったと。そこで私は、「そうか、それは良かったね、悪縁が切れて。このままだったらまた苦しむからね」と言ったんだ。そしたらなんと、ショックがさめる間もなく、即新しい彼女が現われて、今は半分修行、半分そちらにうつつを抜かしていると。(笑)

これが、オウムが真理である背景だね。真理というのは、この世で幸福になること、来世高い世界に生まれ変わること、解脱することというね、三つのうちのいずれかの結果を必ずもたらします。だから、この世の幸福を望んでいるならば、ある人は事業が良い方向に展開してきているし、ある人はすごくゴタゴタが起きていたのにゴタゴタがなくなったと。そうした変化が必ず起こります。

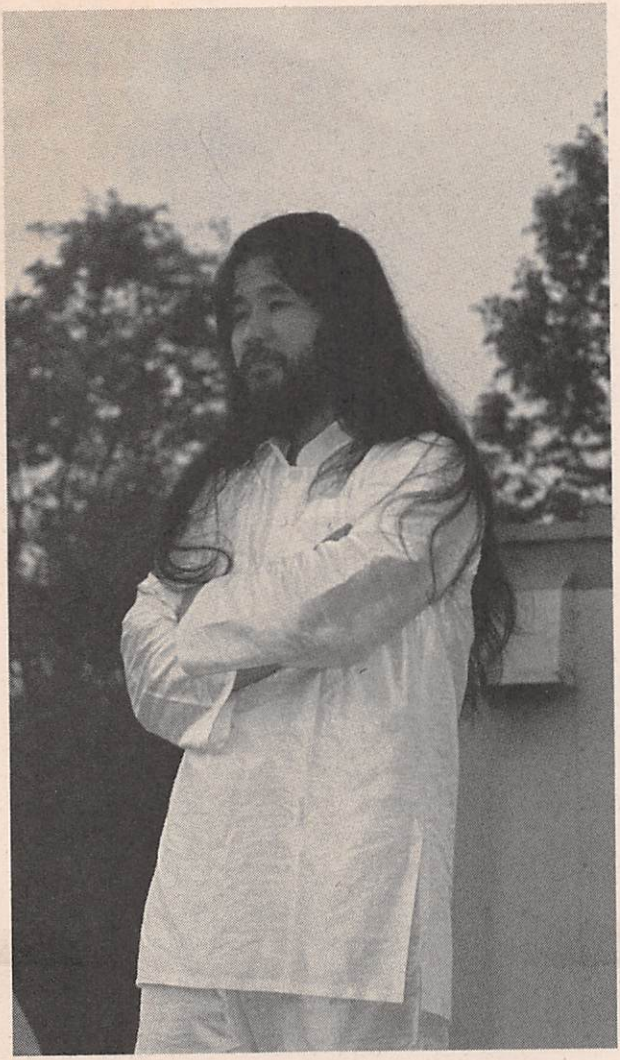
ただね、一つ言えることはだよ、現世的な幸福ではなく、解脱を望んでいる、悟りを望んでいる人は、私と同じように、必ず現世的な生活はガタガタになるからね、すべてが。それはなぜかというと、現世から離れなければならない、その準備としてガタガタになる

からです。なって当然だ、これは。だから、現世的にガタガタするのは嫌だという人は、悟りと解脱をあきらめて天界へ行きなさい。だから釈迦牟尼もこう説いていらっしゃるね。「汝らに法を与えたい。しかし、その法を汝らが実践したとしても、最終地点にまではいけない」と。

いいですか。だから、在家には持戒と布施の実践を説いたわけだ。ところがね、後世の成就者の中で、「では、在家の人は成就できないのか。解脱できないのか」という疑問が出てきた。そして、そうではないという展開でスタートしているのがタントラ乗なんだよ。だから矛盾しているようだけども、もう一度説明するよね。

まず、在家で意志の力の弱い人間、これは天界へ行きなさい。もし、在家で意志の力が強く、しかも四つの極限——布施、持戒、忍辱、精進という四つのプロセスのできる人はタントラ乗へ進みなさい。そして、解脱したいんだけども意志が弱いという人は、出家して私の弟子（オウムのスタッフ）となって大乗の道を歩みなさい。

在家の皆さんには、大きく分けてこの三つの道、三つの修行プロセスがあると言えます。もうあなた方の前には八人の成就者がいる。そして、この成就者達は、その人が謙虚であれば、おそらく今生でジュニアーナ・ヨーガ、大乗のヨーガのプロセスへと入っていく



だろう。その人が謙虚ではなく、エゴの強い人だったならば、ニルヴァーナ[111]に入ってしまうだろう。それは、どちらでも構わないことだ。しかし、あなた方の前には八人の成就者がいるんだよ。だから、不安を持たないで、堂々と修行し、そして成就をしなさい、あるいは天界へ行きなさい。

私達の修行の目標は、成就すること、もしくは天界に行くことです。その目標に到達するよう、頑張って修行しましょう。

注釈

（1）最終解脱者

解脱とは、人間が生死を超え、絶対自由・絶対幸福の存在になることで、修行における一つの完成を表わす。最終解脱者とは、すべてのヨーガの完成者である。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

（2）成就した大師方

オウム真理教では、少なくとも一つのヨーガを成就すると、ホーリー・ネーム（祝福された修行者名）が与えられ、大師の称号で呼ばれる。

（3）神

「神」という言葉には二つの意味がある。一つは、欲六界の天界の住人を指す場合であり、もう一つは「創造主」を指す場合である。ここでは、前者の意味で用いられている。

（4）四禅定と六神通

四禅定とは、初禅、第二禅、第三禅、第四禅という、空性に入るための四段階の瞑想プロセスのことをいう。六神通に関しては本文参照。

（5）テレポーテーション

瞬間的に空間を移動する能力のこと。波動力学理論によって、それは可能とされる。

（6）前世・来世

解脱をしない限り、すべての魂は生まれ変わりを繰り返す。過去に経験した生を前世、死後

に来るべき生を来世という。

（7）煩悩
私達を束縛する精神作用の総称。根本煩悩としては、貪（むさぼり）、瞋（いかり）、癡（おろかさ）が挙げられる。

（8）ヨーガ
日本では美容と健康のイメージが強いが、解脱に至るための方法が真のヨーガである。

（9）ラージャ・ヨーガ
意志のヨーガといわれる。詳細は『マハーヤーナ・スートラ』参照。

（10）クンダリニー・ヨーガ
生命エネルギーのヨーガ。詳細は『生死を超える』『マハーヤーナ・スートラ』参照。

（11）パタンジャリ
紀元前二世紀の文典家。ラージャ・ヨーガの経典『ヨーガ・スートラ』を著わした。

（12）真我
コーザル世界・アストラル世界・現象界という三つの世界ができる以前に存在していた、私達にとって本当の自己。永遠、不滅、歓喜の三つを属性とする。成熟した真我には、智性と智性から来る四無量心が加わっている。

（13）五大元素
宇宙や私達の身体を構成している要素のこと。「地・水・火・風・空」で表わされる。

（14）『シヴァ・サンヒター』
十六、七世紀頃成立した、シヴァ派の聖典。

(15) 三界
仏教でいう、欲六界、色界、無色界のこと。ヨーガでは、現象界、アストラル世界、コーザル世界という。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(16) 幽体離脱
魂が肉体を抜け出し、アストラル世界へ入ること。スヴァディスターナ・チャクラの幽体を使う。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(17) 輪廻
魂が煩悩によって幻影から脱却できずに、生死を繰り返すこと。

(18) カルマ
条件によって原因が生じて、原因によって結果が生じること。つまり、過去の良い行為、悪い行為が後に自分に返ってくること。

(19) 不死の甘露
クンダリニーがサハスラーラ・チャクラに到達することで得られる、ネクターともビンドゥーとも呼ばれているもの。その甘露によって、私達は不死の状態を得られる。『生死を超える』参照。

(20) チャクラ
詳細は『生死を超える』『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(21) ダルドリー・シッディ
体が自分の意志とは無関係に跳ね上がる現象。空中浮揚の前段階に当たる。

(22) クンダリニーの覚醒
詳細は『生死を超える』参照。

(23) ピンガラ管・イダー管・スシュムナー管
各管の詳細は『イニシエーション』参照。

(24) 〈火と水の洗礼〉
詳細は『超能力・秘密の開発法』参照。

(25) 功徳
詳細は『イニシエーション』参照。

(26) 善性
三グナのサットヴァが優位で、すべてを明らかにする状態のこと。三グナについては、注(61)参照。

(27) 「六つの極限的修行」
大乗仏教で、一般に「六波羅蜜」といわれている修行法。漢語に訳される前のこの言葉に〝極限〟の意味合いがあるため、言葉の意味の忠実さを期して、麻原尊師が使われる。布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧という六つの極限のこと。『イニシエーション』『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(28) 『ヨーガ・スートラ』の八部門
禁戒・勧戒・座法・調気法・制感・精神集中・瞑想・超覚醒の八つをいう。『イニシエーション』参照。

(29) イニシエーション
オウムのイニシエーションについては、第二章イニシエーションの項と第三章参照。

(30)『超能力・秘密の開発法』
麻原尊師が著わした、神通力獲得のプロセスを明らかにした書。

(31)『生死を超える』
麻原尊師が著わした、釈迦牟尼の「縁起の法」がクンダリニー・ヨーガのプロセスであったことを説き明かした書。

(32)『超能力・秘密のカリキュラム』
麻原尊師が著わした、超健康体・神通力・解脱を獲得するための、クリヤ・ヨーガの秘法を明かした行法集。

(33)『イニシエーション』
麻原尊師が著わした、悟りのプロセスの奥儀を明かした書。

(34)『マハーヤーナ・スートラ』
麻原尊師が著わした、大乗ヨーガの全ステージを明らかにした書。

(35)和田平でのセミナー
オウム真理教では、信徒の修行の向上のために、合宿による集中修行を開催している。このセミナーは、六十二年十月に開かれたもの。

(36)『マハーヤーナ』
魂の完全解放を語る月刊書籍。尊師の真理の法、成就者の貴重な体験談、「大宇宙占星学」、超能力セミナー、人生相談、科学、アストラル音楽等、精神世界の情報を満載している。

(37)「風の瞑想」
アナハタ・チャクラに位置する、五大元素の〈風〉のステージに至ると、空中浮揚や宿命通

という神通力が身につく。チベット仏教の「風の瞑想」は、このアナハタ・チャクラのステージに当たり、空中歩行をする「風の行者（ルン・ゴムパ）」のエピソードが伝えられている。

（38）五体投地
立位の姿勢からの連続的な礼拝を通じ、グルへの信と帰依を深める修行法。

（39）気
気とは生命活動を促すエネルギーのこと。人間の体は、アパーナ気、サマーナ気、プラーナ気、ウダーナ気、ヴィアーナ気という、五種類の気の働きに支えられている。詳細は『超能力・秘密のカリキュラム』参照。

（40）制感
プラティヤハラともいう。外界からの刺激や影響を一切受けない状態のことで、『ヨーガ・スートラ』の八部門のうちの一つに当たる。

（41）変化身
マニプーラ・チャクラに属する、特別な身体のこと。下位アストラル世界で活動する。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

（42）シャヴァアーサナ
全身をリラックスさせるヨーガのアーサナのこと。『超能力・秘密のカリキュラム』参照。

（43）アストラル・エネルギー
言葉は、アストラル世界のエネルギーに影響を与える。

（44）グル
宗教上、修行上の指導者、師。ここでは麻原

彰晃尊師を指す。

(45) コーザルのデータ
コーザル世界とは、光優位のデータの世界である。そのデータを読み取ることで、様々な情報が得られる。詳細は『生死を超える』『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(46)「龍宮の宴」
麻原尊師が天界から持ち帰った神秘の音楽「アストラル音楽」を中心に、天界の舞踏、「香りのイニシエーション」を織り交ぜた、「アストラル・ワールド・フェスティバル」のこと。六十三年二月、大阪で開催された。

(47) アストラル音楽
麻原尊師が高次元の世界から引き出したこのメロディーには、アストラル体の浄化や深い瞑想状態へと導く効果がある。六十三年八月現在、十一曲が発売中。詳細は『マハーヤーナ』参照。

(48) 遠隔他心
遠く離れた人の心を読み取る力。真の他心通に、三次元的な距離は関係しない。

(49) アストラル世界
音優位の微細なイメージの世界。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(50) サンガ
ここでは、オウムの真理の法を実践する修行者の集団のこと。

(51) 四無量心
平等心・愛・哀れみ・他を誉め称えることの四つの心を養う、大乗の基礎となる修行法。

『イニシエーション』参照。

(52) シャクティーパット
グルが弟子に直接霊的なエネルギーを移入し、クンダリニーの覚醒等、霊性を高める技法。

(53) 〈風〉のステージ
アナハタ・チャクラのステージのこと。

(54) 前生夢
自らの前世を夢で体験する、宿命通の能力。

(55) ニンマ派
チベット密教の源流とされる古派。八世紀、西北インドからパドマサンバヴァがもたらす。

(56) カギュ派
後期チベット密教の一派。十一世紀、ティローパの弟子であるナローパにインドで学んだマルパが、チベットに持ち帰った教え。弟子ミラレパがその発展に尽くす。

(57) マハー・ムドラー
タントラの最高のグルしかなし得ない、成就させる方法のこと。コーザル世界にある、この現象界にかかわるデータを一時的にグルが具現化し、そのデータを抜き去るという技法。『マハーヤーナ』NO12参照。

(58) テレパシー
言語その他の感覚的手段によることなしに、ある人から他の人に、思考・観念・感覚などを伝達すること。

(59)「オウム神仙の会」
オウム真理教の前身。

(60) アストラル・テレポーター
オウムCSIが開発した、世界にただ一台しかない、五大エレメントを強化する装置のこと。『マハーヤーナ』NO12参照。

(61) 三グナ
真我とともに始原より存在していた、ラジャス（動性）、タマス（暗性）、サットヴァ（善性）という根本的な三つのエネルギー。この三グナが真我に干渉して、コーザル世界、アストラル世界、現象界という三つの世界ができた。それはまた、私達の迷妄の苦しみの始まりでもあった。

(62) ラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガの成就の状態
『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(63) 甘露水
麻原尊師の修法によって、高次元のエネルギーが込められた聖水。水元素を浄化し、スヴァディスターナ・チャクラを活性化する。

(64) ヒヒイロカネ
霊性を開発する神秘の霊石のこと。『マハーヤーナ』NO1参照。

(65) 魔境
低位アストラル世界と通じ、肉体的、精神的に変調を来すこと。肉体的な修行のみが進み、精神的な修行がそれに追い付かない場合や、修行者に功徳がない場合に陥る。

(66) 独房修行
外界を完全に遮断した個室で行なわれる、解脱直前の修行者のための極限的な修行のこと。

『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(67) ヴァヤヴィヤ……
各修行法については、『超能力・秘密のカリキュラム』『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(68)「水中エアー・タイト・サマディ」
第二章サマディの項参照。詳細は『マハーヤーナ』NO11。

(69) エジプトのハトホル神殿
ここには、クンダリニー・ヨーガの源流があった。詳細は『マハーヤーナ』「エジプトの秘儀を解く」参照。

(70) 原始キリスト教のイニシエーション
エジプトで、麻原尊師はコプト教の秘儀を知る。『マハーヤーナ』NO5参照。

(71) ジュニアーナ・ヨーガ
分析的ヨーガといわれる。詳細は『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(72) マニプーラ
マニプーラ・チャクラは、天界・阿修羅界に対応し、火元素を司る。すなわち、護摩法の念力は、マニプーラ・チャクラに影響を及ぼすのである。

(73) ネーティ
鼻の浄化法のこと。『超能力・秘密のカリキュラム』参照。

(74) ロータス・ヴィレッジ
すべてが真理に基づいた生活をすることができる、オウムの理想郷のこと。そのヴィジョンは、「世界シャンバラ化構想」へと広がってい

る。現在、着々と構想の実現に向けて進行中。

(75) シャンバラ
シヴァ神が統治する伝説の理想郷のこと。宇宙の全真理を極めた魂のみが入ることができる。

(76) シヴァ神
オウム真理教の主宰神。マハー・ニルヴァーナに住み、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の状態にあり、救済者を救済する真我で、比類なき菩提心の持ち主。

(77) コーザル・ヨーガ
コーザル世界でデータを入れ替え、カルマを浄化するヨーガ。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(78) 涅槃
ニルヴァーナという、小乗の修行者の到達点のこと。大乗の仏陀の道を歩いている者は、魂の状態が涅槃にあり、この現象界において救済活動を行なっている。

(79) トゥモ
熱のヨーガのこと。『生死を超える』参照。

(80) 識無辺処定
四無色定の一つ。肉体が膨張する感覚を得る状態。

(81) 聖徳太子
伝説によれば、一時に十人の訴えを聞いたということから、豊聡耳の皇子と呼ばれた。

(82) 護摩法
供物を火元素に還元して、神々を供養する儀式のこと。しかしながら、この純粋な供養のための護摩法を、現世利益というエゴのために使おうとする宗教団体が、いくつか存在している。火によってかなった願望は、必ず「火のカルマ」となって不幸をもたらすのだ。『マハーヤーナ』NO8「人生を斬る」参照。

(83) アストラル・トリップ
肉体から変化身に意識が移り、アストラル世界へと旅立つ現象のこと。

(84) アメリカでのシャクティーパット
詳細は『マハーヤーナ』NO13参照。

(85) ダライ・ラマ法王
観音菩薩の化身といわれるチベット密教の総帥。幾度も転生を繰り返し、現在の法王は第十四世である。六十二年二月、ダラムサラを訪れた麻原尊師は法王と会見。その席上、法王は「日本に真実の宗教を広める使命」を麻原尊師に託されている。

(86) ルン・トラブル
チベット医学において、病の種類は三つに大別できる。それは、風の病、胆汁の病、粘液の病の三つである。このうち、風の病のもととなる風エネルギーに異常を来すことを、ルン・トラブルという。

(87) 仏陀
目覚めた人、悟りを得た人のこと。

(88) ブラフマ・ランドラ
頭頂に位置し、アストラル世界とつながって

いる部分のこと。

(89) 下位アストラル世界
アストラル世界のうち、現象界の裏側にある世界のこと。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(90) シャクティープラヨーガ
霊性を向上させるためのエネルギー移入のこと。シャクティーパットとの違いは、直接体に触れない点にある。病気治療にも効果がある。

(91) 水元素優位の人間界
人間界・動物界は、水元素を司る、スヴァディスターナ・チャクラに対応する。

(92) アストラル体
アストラル世界で実際に活動する身体。別名、微細体ともいう。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(93) 甘露水の科学的実験
『マハーヤーナ』NO5参照。

(94) タントラのイニシエーション
詳細は『イニシエーション』参照。

(95) バルドーの体験
死後、転生する前に入る中間状態の世界をバルドーという。その世界を変化身で体験すること。『生死を超える』参照。

(96) 蓮華座
パドマアーサナという座法の一つ。座法に関しては、『超能力・秘密のカリキュラム』参照。

(97) ツァンダリー
もともとは「熱」を表わす言葉。その瞑想は、オウムでは秘儀とされる高度な瞑想法である。

(98) ナーダ音
アナハタ・チャクラの世界の音が、ヴィシュッダ・チャクラを通じて聞こえる、異次元の神秘の音。修行が進むと聞こえるようになる。

(99)「大乗の発願」
ここでは、すべての魂がマハーヤーナへ入らんことを願う詞章のこと。

(100) 三昧(さんまい)
究極の瞑想状態。『ヨーガ・スートラ』では、この三昧をもって解脱としている。

(101) 暗性(あんせい)
三グナのタマスのエネルギーが優位で、アストラル世界などのヴィジョンが全く見えない状態のこと。

(102) コーンダンニャ大師の場合
独房修行によって成就した大師方とは異なり、コーンダンニャ大師は俗世間でひたすらバクティー修行をしながら成就した。このことを現世成就という。『マハーヤーナ』NO13参照。

(103) バクティー
グルとシヴァ神の意思を具現化する奉仕活動のこと。これによって、心を浄化し、グルの神聖なエネルギーを受けることができる。

(104) ビバリータ・カラニー
霊的覚醒を促すのに効果的な技法。『超能力・秘密のカリキュラム』参照。

(105) クンバカ
保息(ほそく)のこと。この場合は、三つのバンダ(喉(のど)・腹(はら)・肛門(こうもん)の締め付け)をしながらの保息で

あった。

(106)「大宇宙占星学」の特徴
詳細は『マハーヤーナ』NO10参照。

(107)「水中エアー・タイト・サマディ」の成功
『マハーヤーナ』NO11参照。

(108) 水中サマディ
水の中に潜り、サマディの状態に入ること。これによって、サマディの呼吸停止を証明する。

(109) 大乗のヨーガ
『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(110)「ポア・コース」
今生の幸福と、来世の幸福な転生を目的とする、オウム真理教のコースの一つ。

(111) プルシャ
人々を幸福にしたり、霊性を向上させるための、神秘のセラミックのこと。

(112) プルシャ型たまて箱
古代エジプトの秘儀に基づく、地元素を浄化し、ムーラダーラ・チャクラを活性化する、ペンダント型たまて箱。プタハ、ハトホル、オシリス、ホルスの四種類がある。

(113) 超純粋甘露水
麻原尊師が特別に長時間修法されて、でき上がった甘露水のこと。

(114) 来年には多分十個……
六十三年八月現在、サットプラーナ神水、アストラル・イニシエーション、アストラル食が、新たに加わっている。

(115) マハーヤーナ
現象界、アストラル世界、コーザル世界を超えた、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の世界のこと。『マハーヤーナ・スートラ』参照。

(116) グヤサマジャ
三面六臂の姿をした、釈迦牟尼のタントラの仏陀としての名。

(117) ニルヴァーナ
小乗の修行者が行く最高の世界。

真実は光を超えた

「マハーヤーナ」MAHA-YANA
麻原彰晃監修・月刊書籍

精神世界の情報満載
こんな書籍はかつてなかった！
大反響を巻き起こした話題の「マハーヤーナ」

解脱者が続出するのも、幸福へ近づけるのも
情報の正確さの証明——
次に真実を見るのはあなた

「特別寄稿、説法」等、麻原彰晃尊師の真理の法を毎月掲載./
他に、貴重な成就者の体験談、超能力セミナー、人生相談、占星学、
科学、音楽……盛りだくさんの内容はもうあなたを離さない./

A5版 NO.1～6　800円、NO.7～　1100円（送料300円）毎月1回10日発売

NO.1

NO.2

NO.3

NO.4

NO.5

NO.6

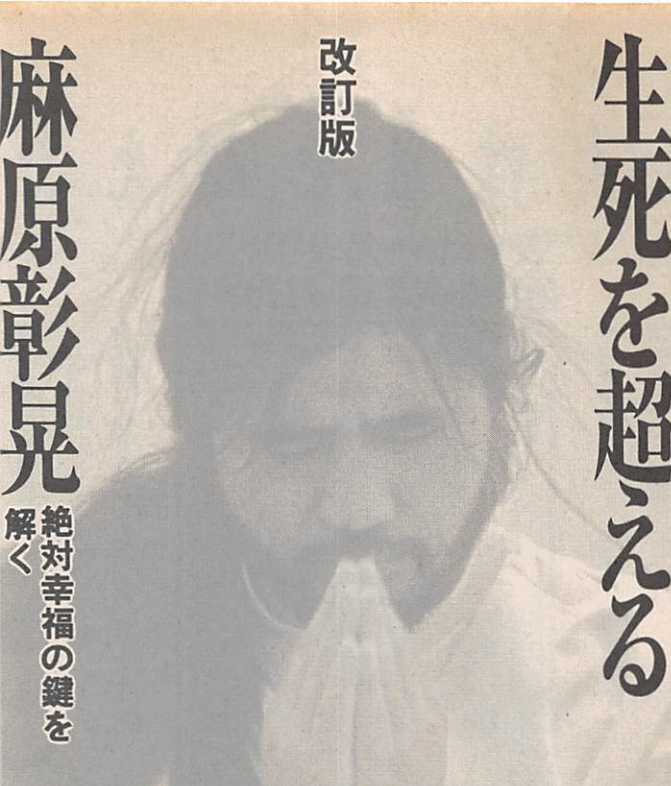
死の世界の後、私は解脱を得て、すべてを悟った!!

生死を超える

改訂版

麻原彰晃

絶対幸福の鍵を解く



死を超越した
魂の自由を
高らかに謳った名著、
堂々の改訂版!!

何も見えない。何も聞こえない。
私の体は分解し始めた。
体は冷たくなり、呼吸は止まった。
こうして私は死んだ。
そして、死の世界を味わい尽くして戻ってきた私は、
念願の解脱を果たした。するとどうだろう。
仏教の謎とされていた、釈迦牟尼の「縁起の法」の真意が明らかになった。
それは、解脱のプロセスを示していたのだ!
第一章　今明かされる死後の世界、解脱のプロセス
第二章　解脱・超能力獲得のための実践テクニック
第三章　数々の神秘体験が今ここに!修行者21名が明かす実体験

目次より

- 四ヵ月菜々クンダリニー覚醒法
- 恐怖と戦慄の魔境
- 至上の幸福(ラ)
- 不死の甘露を呼び起こす
- 死の瞬間
- すべてを思いのままにする〈三昧〉
- 神に近付くムドラー
- 超能力が目覚める調気法
- 覚解　それは異次元への門
- タントラ・ヨーガについて

B6判／292頁(巻頭カラー4頁)
定価1,800円(送料300円)
書店にない場合は左記にお申し込みください。
オウム出版　〒154東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03(323)9294
郵便振替　東京2-109325

麻原彰晃著

今蘇るクリヤ・ヨーガの秘法
超能力秘密のカリキュラム 健康編

◉クリヤ・ヨーガとは何か?

クリヤ・ヨーガとは、ヒマラヤに伝わる肉体浄化の秘法です。修行をささえる超健康体をつくるだけでなく、あなたのアストラル・ボディー（幽体）の浄化にもかかせません。アストラル・ボディーの浄化こそは超能力獲得・解脱の決め手!クリヤ・ヨーガであなたの修行は飛躍的な進歩を遂げることでしょう。難病根治の法も満載!

◉どこまで信じられるか?今常識は覆されようとしている!

- 三時間睡眠でエネルギッシュに活動できる
- 超健康体になれる
- 精神的ストレスの解放
- 明晰な頭脳・記憶力を獲得する
- 神秘体験ができる
- 超能力者になれる

麻原彰晃著　定価980円　書店にない場合には左記にお申し込みください。（送料300円）
・オウム出版　〒一五四　東京都世田谷区世田谷二-八-十七
・電話　03（323）9294・郵便振替　東京2-109325

イニシエーション INITIATION

麻原彰晃 著

B6判 堂々巻頭カラー 定価2100円

至上最高の秘儀・秘伝書!! 精神世界のバイブル 重版出来!!

◉**解脱と悟りの真のプロセスを解明!**
六十二年、著者 麻原尊師の弟子八名がすでに「解脱」「悟り」を得、成就! このことは尊師の教えと修行法の正しさを裏付けています。

◉**次々と適中する予言——確実に核戦争だ!!**
「富士山の噴火」「日米経済摩擦の深刻化」など尊師が事前に予言されていた事柄が一つ一つ現実と化してきました。その麻原尊師が語る「日本と世界の未来」とは?

◉**古今東西との経典にも記されていなかった「貴重な真実」**
チベット密教ゲールク派のタントラ・イニシエーションとオウムのイニシエーションを比較しながら解説します。

◉**豊富な体験談を掲載!**
「クンダリニーが覚醒する」「過去世が蘇る」「精神面の充実」「女性にもてはじめる」

既に修行をはじめている三十一名の方々の体験談をステージ別に載せています。

絶賛の声

●加藤孝子さん(福岡県・主婦)
「真の救済者としての偉大さ、あふれる愛とエネルギー、論理の明快さ。めぐり合わせて戴いた幸せを感じて居ります。」

●池田麗子さん(東京都・主婦)
「初心者にもわかりやすく書かれ、内容も広くて深い素晴らしい本です。」

●栩木小百合さん(大阪府・主婦)
「真理が一杯詰まった、そして真理の実践のプロセスが説き明かされている、偉大な書であると思います。」

●大川博之さん(東京都・アーティスト)
「読めば読むほど味わいのある本であり、読むたびにいろいろ違った方向で勉強させられた。」

●浅野国利さん(東京都・ピアノ調律師)
「今まではっきりしなかった、各ヨーガの特長がよくわかってよかった。写真が美しかった。」

●野呂すみえさん(大阪府・マッサージ師)
「身と心が引き裂かれるようなヴァイブレーションを感じ、私は恐ろしさの為、思わず本を閉じてしまったのです。」

●青柳聡子さん(東京都・看護婦)
「現代社会に合わせた悟りのプロセスが、わかりやすくまとめられた、最も優れた書物であると思います。」

●浅井信滋さん(ロスアンゼルス・医師)
「純粋に人生の探究を思いいたったあなたに唯一この本が答えを与えてくれるでしょう。」

●秋山伸二さん(東京都・学生)
「読み返すたびに、修行上や精神上の問題に必ず新たな道を照らし出してくれる本です。」

「イニシエーション」
麻原彰晃著
B6判
定価2100円

現実に存在する神秘の世界、そして真実の世界をあなたものぞいてみませんか?「イニシエーション」を手にした瞬間、あなたも真実の道を歩みたくなるかもしれません。

書店にない場合には左記にお申し込みください(送料300円)

・オウム出版〒一五四東京都世田谷区世田谷二-八-十七

電話03(323)9294・郵便振替東京2-109325

解脱とは？
解脱の真の意味合いとは？…

「マハーヤーナ・スートラ」

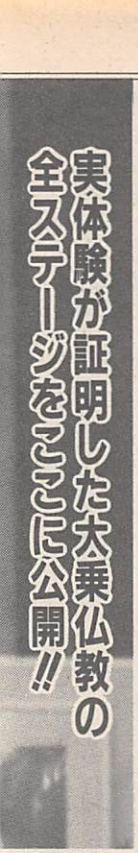
MAHA YANA SUTRA

大乗ヨーガ経典

麻原彰晃 著

あなたは苦悩してはいないか？
あなたは迷妄の中でもがいてはいないか？
あなたは騙されてはいないか？
麻原彰晃が説き明かす真理のすべて

実体験が証明した大乗仏教の全ステージをここに公開!!



日本で初めての偉大な経典

早川知子さん（大阪府・OL）

「願わくば、すべての魂がマハーヤーナに入るまで……」この麻原尊師の強い願いに胸がときめくのを感じました。宇宙の構造からすべてのヨーガについて、体系的にわかりやすく書かれ、尊師自ら体験、証明してくださっています。日本で初めての、この偉大な経典に向かうとき、おのずと謙虚になるのです。

宗教家が論争する時代は終わった！

満生均史さん（福岡県・不動産会社経営）

麻原尊師のすべての人々を救済したいという願いが、誰もが待ち望んだ経典、「マハーヤーナ・スートラ」には込められている。この中のステージをただ確実に昇っていきさえすれば、気づいたときには解脱し、マハーヤーナへと到達しているだろう。真理への道筋はもう決まった！

心の成長、"神"の能力を取り戻したい人々への至宝

柴田俊郎さん（東京都・公認会計士）

もともとは"神"としてマハーヤーナに存在していた私達の魂。この「マハーヤーナ・スートラ」は、物質的欲望や刹那的楽しみを追い求める現代人がどんな方法で、どんなステップで、また一人の神に戻ることができるのかを明確に答えてくれる。

長い間の重荷から解放された

遠藤誠一さん（京都府・京都大学大学院1年）

「いっさいのものは、原因と結果の連続にすぎない。」この尊師の言葉に、私は長い間私の心を縛りつけていた重荷から解放されたような安らぎを感じた。そして、ここまで真理を公開された尊師の熱意に何とか報いなければならないような気がした。

B6判 296頁(巻頭カラー8頁)
定価3,000円

写真を見ているだけでやすらいだ気持になれる

今井啓貴さん
(東京都・早稲田大学2年)

あらゆる疑問と不安に答えてもらったような感じです。大乗と小乗の違い、各ヨーガの特色、修行を進めていく上での注意、それらが見事にひとつにまとめられていました。おそらく、古今東西初めての本と言えるのではないでしょうか。

尊師の救済の姿勢に深く感銘

島田雪子さん
(長崎県・税理士)

迷妄の闇の中をさまよい続けている私達にとって、この書は大きな財産となりましょう。御自分の命を投げ捨てて、すべての魂を救済しようとする尊師の姿勢に感銘を受けました。そうした大乗の流れについていきたいという帰依の気持ちで一杯です。

興味深い解脱者の体験談

平田雅文さん
(大阪府・整形外科医)

全く驚嘆すべき内容でした。「3つの世界の構造」「無と空の違い」などこれまで釈然としなかった事柄がすっきりと整理されていました。修行中の精神状態や行法について詳しく書かれた、解脱者道の"独房修行"の体験談は非常に興味深く読むことができました。

修行という幸福への旅に欠かせない"地図"

高木雄一郎さん
(東京都・東京大学大学院1

以前からマハーヤーナへと至る、小乗と大乗の関道、ラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガ等の関連を詳しく知りたいと思っていたが、この本はそれを明解に明かしてくれる。1日も早く、そのプロセスに到達したい。

書店にない場合は、現金書留か郵便振替で下記までお申しみください。(送料300円)
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL.03(323)9294 郵便振替 東京2-109325

ヨーガ秘法の集大成！

秘伝 VIDEO

◉定価10万円

人類最大の危機を救うためには、我々の霊性の向上しかない。グル麻原彰晃は、インド・ヒマラヤヨーガの奥儀中の奥儀を公開することを決意した。本来ならば、選ばれた高弟に口頭伝授でしか与えないものを、惜しげもなくここに公開したのだ。

それが、この「ヒマラヤ・ヨーガ秘伝」である。それでは、本邦初公開の調気法のいくつかを、ここに示してみよう。

◉ハリダヤ・スタンバ・プラーナーヤーマ

空中浮揚に至るための調気法である。力強いヨーギでないと修習できないほど、危険な調気法であるが、これによって虚空三昧をも体験することができる。

◉サルヴァンガ・スタンバ・プラーナーヤーマ

水上歩行に至るための調気法である。呼吸と体を完全にコントロールすることによって可能になるが、これには強い意志が必要だ。

◉ナーディ・アヴァローダ・プラーナーヤーマ

ヘラクレスのプラーナーヤーマともいう。この調気法によって、ヘラクレスのパワーを得ることができる。この調気法にこそ、巨石文明の謎を解く鍵が潜んでいるのだ。

まさに秘伝中の秘伝！　このような十種の調気法と五種のムドラーが、グル麻原自らの実技によって示されるのである。そのうえ、

グル麻原彰晃が明かす

Initiation of Himalayan Yoga

ヒマラヤ・ヨーガ

一目瞭然の映像と詳細な解説で、容易にすべての行法をマスターすることが可能なのだ。このビデオを手に入れたそのとき、あなたはすでに超能力者なのである。そして、解脱できる日も遠くはないのだ。

なお、このビデオの行法は修行が急速に進む半面、大変危険な行法でもある。注意事項は必ず守っていただきたい。

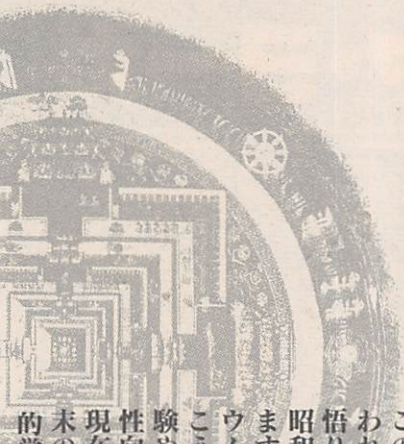
※詳しくは、左記の住所・電話番号までお問い合わせ下さい。

●郵送先　〒154　東京都世田谷区世田谷二―八―十七　株式会社　オウム

●電　話　03（323）9294　●郵便振替　東京2―109325

救済の伝説、それは真理の光から始まる。

オウム真理教



日本で唯一の最終解脱者・麻原彰晃尊師が、私達の霊性向上のためにプログラムしたのが、オウム真理教の三つの修行コースです。

この三つのコースで適切な修行をすれば、三明六通といわれる、あらゆる神通力を得ることはもちろん、解脱・悟りという究極の幸福を得ることも可能です。

昭和六十三年八月現在、十二人の成就者が誕生しております。この事実は釈迦牟尼の教団以来の驚異であり、オウムが真理であることの証左だと言えます。

こうした完璧な修行システムのもとでは、様々な神秘体験や超能力の獲得はもはや常識になっており、確実な霊性向上がお約束できるのです。

現在、増大する魔のエネルギーによって、私達は今世紀末のカタストロフの道をひた走っております。個々の霊的覚醒は、聖なるエネルギーを増大させ、ひいては人類

最大の危機の回避へと至ります。そうです。個々の霊性の向上こそが、絶対的な救済へとつながるのです。麻原尊師は、すべての魂が絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜のマハーヤーナへ至るよう、救済を意思されています。オウム真理教、ここにこそ私達の真の故郷マハーヤーナへのいざないがあるのです。

◉ヨーガタントラ・コース
解脱・悟り獲得のためのコースです。完璧な修行システムと数々のイニシエーションにより、最短三年間で解脱することを可能にします。

◉シッディ・コース
超能力獲得のためのコースです。あらゆる秘法を駆使することにより、安全・確実にすべての超能力を体得することが可能となります。

◉ボア・コース
今生と来世の幸福のためのコースです。麻原尊師が責任をもって、現実生活の幸福と高い世界への転生をお約束いたします。

※他に、準会員制度「預流向（よるこう）」もございます。

⊙資料請求について
詳細についてお知りになりたい方は、下記の資料請求券を添付したハガキ、または、電話にて左記までお申し込みください。詳しい入会案内書及び申し込み書をお送りいたします。

オウム真理教　東京本部　〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5杉田村松ビル1階☎03（327）8565
大阪支部　〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14八光ビル2階☎06（397）1022
名古屋支部　〒460 愛知県名古屋市中区栄4-17-20葛谷ダイアパレス栄601号☎052（252）0709
福岡支部　〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15第一渡部ビル6階☎092（474）2877
札幌支部　〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1札幌三博ビル201号☎011（241）4938
富士山総本部道場　〒418-02 静岡県富士宮市人穴381-1☎0544（54）1267

〈海外支部〉ニューヨーク 53 Crosby St. Main Floor, New York, N. Y. 10012 ☎212（431）8789

〈キリトリ線〉

真理ブックス1
資料請求券

〈真理ブックス1〉
神通力　麻原彰晃は魅せた！
一九八八年十月十六日　初版発行

定価五五〇円
編　者　オウム編集部
発行者　松本知子
　　石井久子
印刷所　図書印刷株式会社
発行所　株式会社オウム
東京都世田谷区世田谷二―八―十七
郵便番号　一五四
電　話　〇三―三二三―九二九四
振　替　東京二―一〇九三二五
乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

© AUM Editorial Staff 1988
ISBN4-900497-60-6 C0214 ¥550E

ISBN4-900497-60-6 C0214 ¥550E 定価550円